日本文法問答

物集高見著

全

ホ 2
438

東京書林
松悦堂梓
利462
利2
門號438
卷
明治九年八月九日
醒齋

日本文法問答

物集高見著

東京書林 松悦堂梓

明治十一年四月上梓

通

思

想

之

楳

渚

也

明治戊寅紀元節

一六居士係題

一　余曩ニ日本文典ヲ著レ文字論ヨリ属辞論ニ至レリ然ルニ文語ノ書タルヤ大率初學ニ在テハ讀ミ難ク倦ミ易レトス故ニ更ニ兒童ノ爲ニ俗談平話ヲ以テ其別記ヲ綴ル即チ是篇ナリ

一　此書文字論ヨリ文章論ニ至ルマデ八冊五編

ヲ以テ終ル其間或ハ辞格ノ精微ニ渉ル者ハ
本書ニ譲リテ省略スルヿアリ覧者幸ニ怪ム
ヿ勿レ

明治十一年三月

日本文法問答（ニホンブンパフモンダフ）

初編目次（ショヘンモクジ）

第一回（ダイイックワイ）　文法總論（ブンパフソウロン）
第二回（ダイニクワイ）　文字論（モンジロン）
音標字（オンペウジ）
平假字（ヒラガナ）
扁旁假字（カタカナ）
五十音（ゴジフイン）

第三回（ダイサンクワイ）　言語論（ゲンギロン）ノ上（カミ）

母音（ボイン）
子音（シイン）
濁音（ダクオン）
言語（ゲンギョ）ノ要旨（エウシ）
體言（テイゲン）
體言（テイゲン）ノ種類（シュルイ）
用言（ヨウゲン）
用言（ヨウゲン）ノ種類（シュルイ）

用言（ヨウゲン）ノ種類（シュルイ）
作用言（サヨウゲン）
活辞（クワツジ）ノ種類（シュルイ）
形状言（ケイジヤウゲン）
接辞（セツジ）
接辞（セツジ）ノ種類（シュルイ）

日本文法問答

豐後　物集高見著

第一回　文法總論

問　文法書ハ何等ノ事ヲ論ジ何等ノ事ヲ記シ何等ノ爲ニ作ルカ

答　文法書ハ我々ガ思念ヲ言ト出スベキ邦語及ビ我々ガ思念ヲ書キ出スベキ國文ノ法ヲ論ジ其規則ヲ記シ我々ヲシテ十分ニ意

問　想ヲ他人ニ告知シ得セシムベキ爲ニ作ル書ニ係ル文法書ヲ學ブニ非ザレバ我々ガ思想ヲ十分ニ言ヒ出シ書キ出ス能ハザルベキカ

答　然リ

問　我々ガ平生用フル所ノ言語文章ニ於テ錯誤アリヤ

答　然リ

問　我々ガ平生用フル所ノ言語文章ニ錯誤アリ他人ノ聞テ會得セザルコトナキハ如何

答　我々ガ平生用フル所ノ言語文章ニハ錯誤アレド他人ノ聞テ甚シキ誤解ヲ爲ザル者ハ一ハ土地ノ習慣ト一ハ聞ク者ノ推量ヲ用フルトニ因レリ

問　我々ガ平生ノ遣辭ニ在ル錯誤ノ中其最モ甚シキ者ハ如何

答 我々ガ平生ノ遣辞ニ在ル錯誤ノ中最モ甚
シキ者ハ自他ノ別ヲ失フト時刻ノ差ヲ誤
ルトノ二個トス自他及ビ時刻ノ解
釋ハ第三編ニ詳ナリ

問 自他ノ別ヲ失ヒ時刻ノ差ヲ誤ルトハ日用
ニ於テ障碍ヲ生ズルコトアリヤ

答 日用ニ障碍ヲ生ズルコトアリ

問 自他ノ別ヲ失フヨリ生ズル障碍ノ最モ甚
シキ者ハ如何

答 自他ノ別ヲ失フト時刻ノ差ヲ誤ルトハ趣意ヲ轉倒スルコトア
リ趣意ノ轉倒ヨリ生ズル種々ノ困難ハ枚
擧ニ堪ヘザルベシ

問 時刻ノ差ヲ誤ルヨリ生ズル障碍ノ最モ甚
シキ者ハ如何

答 時刻ノ差ヲ誤ル片ハ譬ヘバ未ダ金錢ハ收
領ス狀ノ證書ヲ與フル類
ノ失誤ヲ生ゼン

問　自他ノ別ヲ失ヒ時刻ノ差ヲ誤ル原因ハ如何

答　自他ノ別ヲ失ヒ時刻ノ差ヲ誤ル原因ハ其土地ノ方言訛言ヲ呼ビ馴ル、ニ生ジ其鄙語ヨリ出ル種々ノ正シカラザル法ヲ用フルニ成ル者ナリ

問　此二個ノ錯誤ハ古來皆然リヤ

答　上代ハ然ラズ中古ヨリ稍其萌芽ヲ生ジ近世最モ甚シトス

問　文法書ノ規則ハ何ニ因テ立ツカ

答　文法書ノ規則ハ古人ノ遺辭行文ノ法ニ因テ立ツ

問　文法書ノ部分ハ如何

答　文法書ノ部分ハ普通ニ文字論言語論文章論ノ三個トス

問　此三個ノ部分ハ何ニ因テ成ルカ

答　文字論ハ文字ニ因リ言語論ハ言語ニ因リ文章論ハ文章ニ因テ論ズ

第二回　文字論

問　文字トハ何等ノ文字ヲ指スカ

答　我々ガ平生ニ呼ブ所ノ声音ノ記標ニ用フル文字ヲ云フ

問　聲音ノ記標ニ用フル文字ノ數ハ幾許アルカ

答　日本ニ於テ声音ノ記標ニ用フル文字ノ數ハ五十アリ

問　文字ノ形ハ如何

答　文字ノ形ハ左ノ如シ

あいうえお　かきくけこ　さしすせそ
たちつてと　なにぬねの　はひふへほ
まみむめも　やいゆえよ　らりるれろ
わゐゑを

アイウエオ　カキクケコ　サシスセソ
タチツテト　ナニヌネノ　ハヒフヘホ
マミムメモ　ヤレユ氏ヨ　ラリルレロ
ワ井于エヲ

問　大ナル形ノ文字ノ名ハ如何

答　大ナル形ノ文字ハ平假字體ノ五十音字ト名ヅク

問　小サキ形ノ文字ノ名ハ如何

答　小サキ形ノ文字ハ扁旁假字體ノ五十音字ト名ヅク

問　日本ニ於テハ此五十字ニテ種々ノ聲音ヲ記スニ足ラザルヿ無キヤ

答　五十字ニテ足ラザルヿ無シ然レ𪜈濁音ト半濁音ヲ記スニハ又左ノ如ク清音ノ文字ノ肩ニヽ点或ハ○点ヲ加ヘテ其識ト爲スヿアリ

濁音（ダクイン）

が ぎ ぐ げ ご　ざ じ ず ぜ ぞ
ガ ギ グ ゲ ゴ　ザ ジ ズ ゼ ゾ
だ ぢ づ で ど　ば び ぶ べ ぼ
ダ ヂ ヅ デ ド　バ ビ ブ ベ ボ

半濁音（ハンダクイン）

ぱ ぴ ぷ ぺ ぽ
パ ピ プ ペ ポ

問　五十音字（ゴジフインジ）ヲ以テ記（シル）ス五十（ゴジフ）ノ音（コエ）ニ種類（シユルヰ）アリヤ

答　五十音（ゴジフイン）ニ二個（フタツ）ノ種類（シユルヰ）アリ一ツヲ母音（ボイン）ト称（イ）ヒ一ツヲ子音（シイン）ト称フ

問　五十音（ゴジフイン）ノ中幾個（イクツ）ヲ母音（ボイン）ト爲（ナ）スカ

答　五十音（ゴジフイン）ノ中あいうえお ノ五個（イツツ）ヲ母音（ボイン）ト爲（ナ）ス如何（イカン）トナレバ此五字（コノゴジ）ハ單（ヒトヘ）ナル声（コエ）ニテ長（ナガ）ク引（ヒキ）テ呼（ヨ）ブニモ韻（ヒビキ）ニ他音（ホカノコエ）ヲ生（シヤウ）ゼズあーアいーイうーウえーエおーオノ如（ゴト）シ

問　五十音（ゴジフイン）ノ中幾個（イクツ）ヲ子音（シイン）ト爲（ナ）スカ

答 五十音ノ中母音ノ外ノ四十五個ヲ子音ト爲ス如何トナレバ此四十五字ハ單一ナル聲ニ非ズシテ複音ナリ故ニ長ク引テ呼ブ時ハ必ズ其韻ニ母音ヲ見ス則チ左ニ擧ル所ノ子音ノ韻ヲ記セル扁旁假字ノ母音ナルヲ見ヨ

かーアきーイくーウけーエこーオ

さーアしーイすーウせーエそーオ

たーアちーイつーウてーエとーオ

なーアにーイぬーウねーエのーオ

はーアひーイふーウへーエほーオ

まーアみーイむーウめーエもーオ

やーアいーイゆーウえーエよーオ

らーアりーイるーウれーエろーオ

わーアゐーイうーウゑーエをーオ

問 子音ハ何ノ故ニ因テ其韻ニ母音ヲ有ツカ

答 子音ノ韻ニ母音ヲ有ツハ子音ニ七個ノ原音アリテ母音ト相結合シテ成タル原因ナリ

問 七個ノ原音トハ如何

問　言語ノ緊要ト爲ス所ハ如何

答　言語ノ緊要ト爲ス所ハ我々ガ心意中ニ在ル種々ノ思念ヲ他人ニ告知スル媒介ニ用フルニ在リ

問　我々ガ心意中ニ在ル百般ノ思念ヲ言語ノ媒介ニ因テ他人ニ告知スル例ヲ示セ

答　我々ガ日日夜夜ニ學問ヲ爲ント思ヒ孝行ヲ爲ント思ヒ或ハ飲食ヲ爲ント思ヒ運動

答　七個ノ原音ハクスツヌフムルト云フ

問　母音ト結合スル形ハ如何

答　母音ト結合スル形ニ二種アリ詳ニ初學日本文典子音ノ條ニ説タルヲ見ヨ

第三回　言語論

問　言語トハ如何

答　言語トハ物名ヲ呼ビ事理ヲ説ク作業ノ称

問答

泣クノミ

全ク此媒介ヲ用フルニ能ハザル者アリヤ

唖者ト云フ者アリテ人ニ知レメント欲スル事アリ

ルヿハ種々ノ手真似ヲ用フ譬ヘバ圓形ノ物ヲ示サント欲スレバ手ヲ以テ其物形ヲ爲ス方形ノ物ヲ示サント欲スルニモマタ手ヲ以テ其物形ヲ爲ス人見テ其意ヲ了解

問答

ヲ爲ント思フ類ノ意想ヲ人ニ知レメント欲スルニハ必ズ言語ト云フ媒介ニ因ラザルヿ可ラズ若シ此媒介無キ時ハ幾許ノ才藝

幾許ノ知略アル人モ其思念スル事ヲ他ニ示スヿ能ハザルベシ

能ク此媒介ヲ用ヒ得ザル者アリヤ

嬰孩アリ未ダ言語ニ熟レズシテ思念ヲ告ルヿ能ハズ其欲スル所アレバ則チ呼ビ

レ得ルヲ見レバ則チ笑フ了解レ得ザルヲ見レバ則チ已ム而メ人ノ見テ了解レ得ル者ハ實ニ過ズ其困難ノ情狀思フベシ

問　言語ニ多クノ種類アリヤ

答　日本ノ言語ニ三個ノ種類アリ一ハ體言トイヒ二ハ用言ト云ヒ三ハ接辭ト云フ

○體言

問　體言トハ如何

答　體言ハ人。獸。禽。魚。草木。土。石。海。陸。山。川。等ヲ呼ブ如ク其呼ブ聲ニ轉變ノ働キ無キ言ヲ云フ

問　體言ニ多クノ種類アリヤ

答　體言ニ四個ノ種類アリ即チ初學日本文典ニ説ク所ノ實體言。虛體言。假體言。代名言。是ナリ

問　體言ノ文章上ニ見ルヽ形ハ如何

答　左ニ擧ル二章ノ文ニ體言ハ見レタリ

彼人ハ。夜間モ。月の。光りにて。書を讀む

學問ハ。其人の。後に。光りを。添ふる如し。

問　二章ノ文ニ見レタル體言ノ中孰ヲ實體言ト爲スカ

答　孰レモ虛體言ト爲ス。今此二章ノ文ヲ左ニ解剖シテ實體言ト虛體言トヲ示スベシ

第一章

彼人は　人ハ物ノ體アル者ナレバ實體言ト云フ

夜間も　夜間ト云フ物ノ體ハ無キ者ナレバ虛體言ト云フ

月の　月ハ物ノ體アル者ナレバ實體言ト云フ

光りにて　光リニテ實體言ト虛體言トヲ兼ネタリ

書を讀む　書ハ物ノ體アル者ナレバ實體言ト云フ

第二章

學問は

問　其人の後に光りを添ふる如き

答　此二章ノ文中ニ假體言。代名言モ亦アリヤ

假體言。代名言モ亦アリ左ノ如シ

其人ハ物體アル者ナレバ實體言ト云フ

後ト云フ物體ハ無キ者ナレバ虛體言ト云フ

彼人ハ彼ト云フ言ハ物名ニ代ル代名言ト云フ

夜間も月の光りにて書を讀む

第二章　學問は

光ト云フ言ハひかるト働ク作用言ナレド其活用ノ格ニ因リ體言ノ形ヲ爲シタル者ナレバ假體言ト云フ

學問ト云フ言ハまなぶト働ク作用言ナレド其活用ノ格ニ因リ體言ノ形ヲ爲シタル者ナレバ假體言ト云フ

其人の
後に
光りを
添ふる如ー

○其ト云フ言ハ物名ニ代フル故ニ代名言ト云フ

問 用言トハ如何

答 用言トハ萬ノ事物ノ作業ト形容トヲ呼ブ言ヲ云フ而メ用言ハ其呼ブ言ノ種々ニ轉リ變ル者トス

問 用言ノ中萬ノ事物ノ作業ヲ呼フ辞類ノ名ハ如何

答 萬ノ事物ノ作業ヲ呼ブ用言ハ作用言ト名ヅク

問 作用言ノ例ヲ示セ

答 作用言ノ例ハ左ノ如シ

光ト云フ言ハひかる氏働ク作用言ナレ氏其活用ノ格ニ因リ体言ノ形ヲ爲レタル者ナレバ假ニ体言ト云フ

問　同じカラズ

答　第一條ニ擧タル辭類ノ轉變ノ形及ビ其轉
變ノ称ハ如何

問　第一條ノ辭類ノ轉變ハ譬ヘバ進ムト云フ
言ニテ例セバ進まン進み進む進め
ト四段ニ働ク故ニ四段活辭ト称フ初學日
本文典作用言ノ條ニ詳也

問　第二條ニ擧タル辭類ノ轉變ノ形及ビ其轉

第一條　進む　退く　讀む　習ふ
第二條　射る　見る　着る　煮る
第三條　蹴る　綜る　殖る
第四條　起く　恥づ　恨む　報ゆ
第五條　記ゆ　教ふ　勉む　秀づ
第六條　往ぬ　爲る　有る　居る

此六條ニ擧タル作用言ハ皆其呼ブ聲ニハ
轉變アレモ轉變ノ法ニ於テハ其條々ニ従

答　變ノ称ハ如何（カハリ　ナ　イカニ）

第二條ノ辞類ノ轉變ハ譬ヘバ射ル（ダイニデウノクダリ　ジルイ　ウツリカハリ　タト　イ）

ト云フ言ニテ例セバ（コトバ　レイ）

射（イ）　射る（イ）　射れ（イ）

ト射ノ一（イ　ヒト）

音ニるトれトヨ（コエ　ソ）

添ヘテ其活用ヲ（ソノハタラキ）

補フ故ニ（オギナ　ユエ）

上一段活辞ト（カミ　イチダンノハタラキコトバ）

称フル由縁ハ初學日本文典（イ）

ニ詳ナリ

問　第三條ノ辞類ノ（ダイサンデウノクダリ　ジルイ）

轉變（ウツリカハリ）

ハ譬ヘバ蹴ルト云フ（タト　ケ　イ）

蹴（ケ）　蹴る（ケ）　蹴れ（ケ）

ト蹴ノ一（ケ　ヒト）

變ノ称ハ如何（カハリ　ナ　イカニ）

答　第三條ノ辞類ノ轉變ハ譬ヘバ蹴ルト云フ（ダイサンデウノクダリ　ジルイ　ウツリカハリ　タト　イ）

言ニテ例セバ（コトバ　レイ）

音ニるトれトヨ（コエ　ソ）

添ヘテ其活用ヲ（ソノハタラキ）

補フ故ニ（オギナ　ユエ）

下一段活辞ト（シモイチダンノハタラキコトバ）

称フル由縁ハ初學日本文典（イ）

ニ詳ナリ

問　第四條ニ擧タル辞類ノ轉變ノ形及ビ其轉（ダイシデウニアゲ　ジルイ　ウツリカハリ　カタチオヨ　ソノウツリ）

變ノ称ハ如何（カハリ　ナ　イカニ）

答　第四條ノ辞類ノ轉變ハ譬ヘバ起クト云フ（ダイシデウノクダリ　ジルイ　ウツリカハリ　タト　オ　イ）

問　言ニテ例セバ　起(オ)キ　起(オ)く　起(オ)くる　起(オ)くれト起キ起クノ二段ニ轉リ且るトれトヲ添ヘテ其活用ヲ補フ故ニ上二段活辭ト

答　稱フ二段活辭ニ上下ノ別アル由縁ハ初學日本文典ニ詳ナリ

問　第五條ニ擧タル辭類ノ轉變ノ形及ビ其轉變ハ譬ヘバ教(オシ)フト云フ教(オシ)へ教ふ教ふる教ふれト教へヲ添ヘテ其活用ヲ補フ故ニ下二段活辭ト稱フ二段活辭ニ上下ノ別アル由縁ハ初學日本文典ニ詳ナリ

答　問　第六條ノ辭類ノ轉變ノ形及ビ其轉變ハ譬ヘバ往(イ)ヌト云フ往ぬれト種々ニ轉リ變リテ上ニテ例セバ往(イ)ク　往かン　往に　往ぬ　往ぬる　往ねト種々ニ轉リ變リテ上

問　ノ五條ノ如クナラズ故ニ變格ト云フ

答　文典ノ作用言ノ条ニ尚ホ詳ニ説ケリ

問　此六條ニ働ク辞ニ於テ多クノ固有ノ種類アリヤ

答　六條ノ活辞ニ固有ノ種類五個アリ能動活辞。受動活辞。自動活辞。役動活辞。被役動活辞。

問　能動活辞トハ如何ニ

答　能動活辞トハ我ガ爲ス萬ノ作業ノ他物ニ及ビ達ル活辞ヲ云フ例ヘバ讀ムト云フ作業ハ書物ニ及ビ書ク類ノ如シ左ニ擧ル例ヲ推テ其他ヲ準ヘ知ルベシ

を。ト云フ文字ニ意ヲ注クベシ

習ふ　文字を。

見る　學校を

書物を　行儀を。

規則を　生徒を。

問　答

恥づ　不讀を　不書を　不學を
譽む　學事を　勉強を　志操を

受動活辭トハ如何
受動活辭ハ他ノ爲ス作業ヲ我ニ受ル活辭
ヲ云フ例ヘバ他ノ爲ス譽ル作業毀ル作業
ヲ我ニ受テ云フ件ハ譽ラル毀ラルト云フ
類ノ如レ左ニ擧ル例ヲ推テ其他ヲ準ヘ知
ルベシ

（ニトハ云フ文字ニ意ヲ注クベシ）

諫らる　父母に。
留らる　學校に。
諫らる　教師に。　朋友に。
留らる　故郷に。　親里に。

問　答

自動活辭トハ如何
自動活辭ハ爲ス作業ノ其爲ス物體ノミニ
止リテ他物ニ關係ナキ活辭ヲ云フ例ヘバ
「犬ガ走る」「猫ガ睡る」ノ類ノ如ク其作業ハ其
爲ス者ノミニ係レリ左ニ擧ル例ヲ推テ其他

問

ヲ準ヘ知ルベシ

答

○ガ ト云フ文字ニ意ヲ注クベシ

照る　日ガ○　月ガ○　珠ガ○

干る　潮ガ○　衣ガ○

盡く　筆ガ○　紙ガ○　墨ガ○

晴る　天ガ○　雨ガ○　心ガ○

役動活辞トハ如何

役動活辞ハ他人ニ命ジテ萬ノ作業ヲ爲サシムル活辞ヲ云フ例ヘバ「生徒ニ勉強をさせ」小兒に書を讀ませ」ノ如シ左ニ擧ル例ヲ推テ其他ヲ準ヘ知ルベシ

働ませ　生徒を○　朋友を○　我子を○

休ませ　學校を○　習字を○　謦古を○

問

被役動活辞トハ如何

答

被役動活辞ハ他人ニ命ゼラレテ萬ノ作業

ヲ爲ス活辭ヲ云フ例ヘバ「イナダの雀を父に逐せらる」「稻を員たる牛を母に牽せらる」ノ如シ左ニ擧ル例ヲ推テ其他ヲ準ヘ知ルベシ

問

にト云フ文字ニ意ヲ注クベシ

讀せらる　父に。

書せらる　父に。

此六條ニ動ク五種ノ活辭ハ左ノ七章ノ文ニ見レタリ

答

形ハ如何

六條五種ノ活辭ハ

教師の。善く教ふる。生徒は學歩が進む。

彼學校の。生徒は運動の。時に帽を著る。

此犬が。毎日。彼學校の。惡生徒に蹴らる。

學校は。生徒が。互に。相競て。朝早く。起く。

教師は。生徒に。學校の。規則を。記えさせ。

問　規則に違悖爲る兒は教師に去せらる。

答　彼塾には睦まじくて學ぶ兄弟の兒が居る。

問　此七章ノ文ニ見レタル作用言ハ孰ヲ何條ノ活用トシ孰ヲ何種ノ活辭ト爲スカ

答　今此七章ノ文ヲ尤ニ解剖シテ其活用並ニ種類ヲ示スベシ

第一章ニテハ。ト云フ文字ニ意ヲ注テ見ルベシ

教師の

善く
教ふる
生徒は
學歩が。
進む

第二章

彼學校の

此章ニテハ。ト云フ文字ニ意ヲ注テ見ルベシ

進ムト云フ言ハ第一條ニ擧タル辭類ニテ即チ四段ニ働ク自動活辭ナリ。ト云フ文

生徒(セイト)は
運動(ウンドウ)の
時(トキ)に
帽(ボウ)を。
著(キ)る

第三章(ダイサンレヤウ)

此(コノ)字(ジ)ニ章(レヤウ)ノ能(ヨク)動活辞(ドウクワツジ)ナリ。此(コノ)犬(イヌ)ガ

著(キ)ルト云(イ)フ言(コト)ハ第二條(ダイニデウ)ニ擧(アゲ)タル辞(ジ)類(ルヰ)ニテ即(スナハ)チ上(カミ)ノ一段(イチダン)ニ働(ハタラ)ク

毎日(マイニチ)
彼(アノ)學校(ガクカウ)の
悪生徒(ワルセイト)に。
蹴(ケ)られる

第四章(ダイシレヤウ)

此(コノ)字(ジ)ニ章(レヤウ)ノ動活辞(ドウクワツジ)ナリ。生徒(セイト)ガ

蹴(ケ)ラルト云(イ)フ言(コト)ハ第三條(ダイサンデウ)ニ擧(アゲ)タル辞類(ジルヰ)ニテ即(スナハ)チ下(シモ)ノ一段(イチダン)ニ働(ハタラ)ク受(ウケ)

互(タガヒ)に
相(アヒ)競(キソヒ)て
朝早(アサハヤ)く
起(オ)く

第五章(ダイゴシャウ)　此(コノ)字(ジ)ニ意(コヽロ)ヲ注(ツケ)テ見(ミ)ルベシ

起(オ)くト云(イフ)ヿハ第(ダイ)四條(シデウクダリ)ニ擧(アゲ)タル辭(ジ)類(ルヰ)ニテ即(スナハ)チ上(カミ)ニ段(ダン)ニ働(ハタラ)ク自(ジ)動(ドウ)活(クワツ)辭(ジ)ナリ

教師(ケウシ)は
生徒(セイト)に
學校(ガクカウ)の
規則(キソク)を
記(オボ)えさせ

章(シャウ)ニテハ○ヲト云(イフ)ヿ文(モン)

記(オボ)えさせト云(イフ)ヿハ第(ダイ)五條(ゴデウクダリ)ニ擧(アゲ)タル辭(ジ)類(ルヰ)ニテ即(スナハ)チ下(シモ)ニ段(ダン)ニ働(ハタラ)ク

第六章(ダイロクシャウ)　此(コノ)字(ジ)ニ意(コヽロ)ヲ注(ツケ)テ見(ミ)ルベシ

規則(キソク)に
違悖(イハイ)爲(ス)る
兒(コドモ)は

役動(エキドウ)活(クワツ)辭(ジ)ナリ

章(シャウ)ニテハ○ヲト云(イフ)ヿ文(モン)

教師に。
去せらる

第七章 此文

彼塾には
睦まじく
學ぶ
兄弟の
兒が。
居る

去せらるト云フ言ハ第五條ニ擧タル辞類ニテ即チ下ニ段ニ働ク被役動活辞ナリ

此章ニテハがト云フ字ニ意ヲ注クベシ

居るト云フ言ハ第六條ニ擧タル辞類ニテ即チ変格ニ働ク自動活辞ナリ

問 用言ノ中萬ノ事物ノ形容ヲ呼ブ辞類ノ名ヲ

答 萬ノ事物ノ形容ヲ呼ブ用言ハ形状言ト名ヅク

問 形状言ノ例ヲ示セ

問　第一條ニ擧タル辭類ノ轉變ノ形及ビ其轉變ノ稱ハ如何

答　辭ニテ例セバ白ケレバ白ケレト云フハ轉變アレド轉變ノ法ニ於テハ其條ニ從テ同ジカラズ

第一條ノ辭類ノ轉變ハ譬ヘバ白シト云フ變ノ稱ハ如何

第一條ニ擧タル辭類ノ轉變ノ形及ビ其轉

白げト單ニさく志きげノ五個ニ働ク故ニ

單辭ト稱フ初學日本文典形狀言ノ條ニ詳ナリ

問　第二條ニ擧タル辭類ノ轉變ノ形及ビ其轉變ノ稱ハ如何

答　形狀言ノ例ハ左ノ如シ

第一條　白志　黒志　厚志　薄志

善志　深志

第二條　美志　嬉志　樂志　賴志

惡志　正志

此二條ニ擧タル形狀言ハ共ニ其呼ブ聲ニ

問　彼學校は。規則。正くて。生徒の。爲に。善き。

答　第二章ノ文ニ見レタル形狀言ノ中孰ヲ單辭トシ孰ヲ複辭ト爲スカ

問　今此二章ノ文ヲ左ニ解剖シテ單辭ト複辭トヲ示スベシ

答　第一章

彼教師は

志の

答　第二條ノ辭類ノ轉變ハ譬ヘバ美シト云フ辭ニテ例セバ

美しき　美しく　美しさ　美しき

上ニ志ノ辭ヲ加ヘテ　志さ　志く　志き　志

げト働ク故ニ複辭ト稱フ　初學日本文典形狀言ノ條ニ詳也

問　形狀言ノ文章上ニ見ル、形ハ如何

答　左ニ擧ルニ章ノ文ニ形狀言ハ見レタリ

彼教師は志の篤き人にて。生徒も。頼母志。

篤き人にて
生徒も
頼む

篤きと云ふ辞は。きわめて。きわ。きげに働く単辞なり
頼むと云ふ辞は。頼むきく。頼むき。頼むきげに働く複辞なり

第二章

彼學校は
規則
正くて

正くと云ふ辞は。正く。正。おのおの働く単辞なり

生徒の
爲に
善き

善きと云ふ辞は。善き。善きく。善きげと働く複辞也

問答

(一) 接辞

接辞とは如何

接辞は體言。用言。ノ中間に介みて其連續ヲ爲し或は其上下に置て語ノ助に用ふる短辞ヲ云ふ例へば學校に往く汝も學校

問答

接辞ハ其用法ノ差異ニ因テ左ノ二十種類アリヤ

（二）分ツ

人ヲ禁ムルニ用フル辞ヲ　禁止辞ト称フ
物ヲ指示スニ用フル辞ヲ　指示辞ト称フ
現在ヲ示スニ用フル辞ヲ　現在辞ト称フ
過去ヲ示スニ用フル辞ヲ　過去辞ト称フ
未来ヲ示スニ用フル辞ヲ　将来辞ト称フ
否不ヲ示スニ用フル辞ヲ　否不辞ト称フ
疑惑ヲ示スニ用フル辞ヲ　疑辞ト称フ
反動ヲ示スニ用フル辞ヲ　反辞ト称フ
感ジヲ呼ブニ用フル辞ヲ　嘆辞ト称フ
願望ヲ呼ブニ用フル辞ヲ　希求辞ト称フ
下知ヲ為スニ用フル辞ヲ　命令辞ト称フ

「に往け」ノ如ク又彼は書を讀みかつ習字を」ノ如シ

二事ヲ示スニ用フル辞ヲ　両辞ト称フ
程度ヲ示スニ用フル辞ヲ　分量辞ト称フ
想像ヲ呼ブニ用フル辞ヲ　想像辞ト称フ
叓定ヲ示スニ用フル辞ヲ　叓定辞ト称フ
比准ヲ示スニ用フル辞ヲ　比准辞ト称フ
辞句ノ補助ニ用フル辞ヲ　助辞ト称フ
常ニ句頭ノミニ置ク辞ヲ　句頭接辞ト称フ
上ノ十八種ニ入ザル辞ヲ　一種接辞ト称フ

崇敬ヲ示スニ用フル辞ヲ　崇敬辞ト称フ

問　此二十種中ニ収ムル所ノ接辞ハ如何

答　第二編ニ於テ説クヲ見ヨ　全三冊並ニ

日本大文典　全貮冊並ニ

日本小文典　全貮冊並ニ

日本文法問答　全壹冊

初編終

福澤文庫

新刻書目

物集高見著
一日本文法問答　全五冊
初編出版二編ヨリ五編迄追々

同著
一初學日本文典　全貳冊　近刻

同著
一日本大文典　全貳冊　近刻

子安信成著
一皇朝史略質問録　全三冊　近刻

福澤文庫

日本文法問答（ニホンブンポウモンダフ）

二編目次（ニヘンモクジ）

第四回（ダイシクワイ）　言語論ノ中（ゲンギヨロンノチウ）
嘆辞ノ解（タンジノカイ）
希求辞ノ解（キキウジノカイ）
命令辞ノ解（メイレイジノカイ）
禁止辞ノ解（キンシジノカイ）
指示辞ノ解（シジノカイ）

現在辞ノ解（ゲンザイジノカイ）
過去辞ノ解（クワコジノカイ）
将来辞ノ解（シャウライジノカイ）
否不辞ノ解（ヒフジノカイ）
疑辞ノ解（ギジノカイ）
反辞ノ解（ハンジノカイ）
両辞ノ解（リャウジノカイ）
今量辞ノ解（ブンリャウジノカイ）
想像辞ノ解（サウゾウジノカイ）
決定辞ノ解（ケッテイジノカイ）
比准辞ノ解（ヒジュンジノカイ）
助辞ノ解（ジョジノカイ）
句頭接辞ノ解（クトウセツジノカイ）
一種接辞ノ解（イチシュノセツジノカイ）
尊敬辞ノ解（ソウケイジノカイ）
直讀法ノ辨（チョクドクホフノベン）

漢洋文ノ直讀（カンヤウブンノチヨクドク）

接辭ノ直接（セツジノチヨクセツ）

接辭ノ間接（セツジノカンセツ）

形容詞ノ例（ケイヨウシノレイ）

形容ヲ見ス體言（ケイヨウヲアラハステイゲン）

形容ヲ見ス作用言（ケイヨウヲアラハスサヨウゲン）

形容ヲ見ス接辭（ケイヨウヲアラハスセツジ）

日本藏書

第四回 言語論ノ中

問 接辭（セツジ）ノ種類（シュルイ）ハ初編（ショヘン）ニ於（オイ）テ已（スデ）ニ之（コレ）ヲ聞（キ）ケリト雖（トモ）今（イマ）各種中（カクシュチュウ）ニ収（ヲサ）ムル所（トコロ）ノ辭類（ジルイ）ヲ擧（アゲ）ルニ先（サキダ）チ詳（ツマビラカ）ニ其（ソノ）各種（カクシュ）ノ辭義（コトバノコヽロ）ヨリ説（ト）ケ

答 嘆辭（タンジ）ハ心意（コヽロ）ノ感（カン）ジヨリ呼（ヨ）ブ所（トコロ）ノ嗟嘆（ナゲキ）ノ辭（コトバ）ニシテ感（カン）ジハ心意（コヽロ）ノ事物（コトモノ）ニ觸（フレ）テ動（ウゴ）クヲ云（イ）ヒ

嗟嘆ハ大息ヲ衝クヲ云フ故ニ感ジテ喜ビ感ジテ怒リ感ジテ哀シミ感ジテ樂シミ喜ビテ嘆キ怒リテ嘆キ哀シミテ嘆キ樂シミテ嘆ク又父母ヲ見テモ感ジ妻子ヲ見テモ嘆クベシ而メ此感嘆ハ獨リ人類ノミナラズ天地間ノ有生物ニ於テ是レ無キハ無シ

問 鳥虫ノ感ジハ如何

答 春鳥ノ花ニ啼キ秋虫ノ露ニ鳴クモ皆其感ズル所アリテ然ルナリ

問 獸類モ亦感ジアリヤ

答 獸類最モ多シトス

問 獸類ノ感ジハ如何

答 猿ノ四峡ニ叫ビ鹿ノ秋峰ニ呻フモ皆其感ジニ堪ヘズシテ然ルナリ

問　嘆辞ニ叙ムル所ノ辞類ヲ挙ゲヨ

答　嘆辞ニ叙ムル所ノ辞ニ二個ノ種類アリ其一個ヲ体言ノ如ク活用ナキ者トシ其一個ヲ用言ニ似テ格ヲ有ツ者トス用言ノ格ハ第三編ニ説クベシ体言ノ如キ嘆辞ハ

ああああなあはれノ類ナリ

用言ニ似タル嘆辞ハ

やよもをなあかもとそ

嘆辞ノ條ニ詳ナリ

問　此二種ノ嘆辞ハ我々ガ平生ノ遣辞ニモ亦用フルコトアリヤ

答　喜。怒。哀。樂。ノ情生ルル毎ニ必ズ用フ

問　二種ノ嘆辞ノ我々ガ平生ノ遣辞ニ見ルヽ例ヲ各別ニ示セ

答　二種ノ嘆辞ノ中體言ノ如キ辞類ノ平生ノ遣辞ニ在ル者ハ左ノ如シ

ああ熱(アツ)き

あな困(クル)しき

問　用言(ヨウゲン)ニ似(ニ)タル辞類(コトバ)ノ平生(ヘイゼイ)ノ遣辞(コトバヅカヒ)ニ在(ア)ル者(モノ)ハ左(サ)ノ如(ゴト)シ

答　學校(ガクカウ)に往(ユ)けよ。

運動(ウンドウ)の快(コヽロヨ)さや。

希求辞(キキウジ)ト云(イ)フハ如何(イカニ)

問　希求辞(キキウジ)ハ我々(ワレ〳〵)が心(コヽロ)意(イ)ノ中(ウチ)ニ在(ア)ル所(トコロ)ノ冀望(ネガヒ)ヲ言(イ)ヒ出(ダ)スニ用(モチ)フル辞類(コトバ)ヲ云(イ)フ

答　希求辞(キキウジ)ニ収(ヲサ)ムル所(トコロ)ノ辞類(コトバ)ヲ擧(アゲ)ヨ

問　希求辞(キキウジ)ニ収(ヲサ)ムル所(トコロ)ノ辞類(コトバ)ハ左(サ)ノ如(ゴト)シ

ばやがなもト云(イ)フモ同(オナ)ジ初學(ショガク)日本文典希求辞(キキウジ)ノ條(デウ)ニ詳(クハ)シ

問　此辞(コノコトバ)ノ我々(ワレ〳〵)が遣辞(コトバヅカヒ)ニ見(ミ)ルヽ例(レイ)ハ如何(イカニ)

答　希求辞(キキウジ)ノ遣辞(コトバヅカヒ)ニ見(ミ)ルヽ例(レイ)ハ左(サ)ノ如(ゴト)シ

學問(ガクモン)を為(セ)ばや

學校(ガクカウ)に往(ユ)かばや

あゝ寒(サム)き

あな悲(カナ)しき

問　用言(ヨウゲン)ニ似(ニ)タル辞類(コトバ)ノ平生(ヘイゼイ)ノ遣辞(コトバヅカヒ)ニ在(ア)ル者(モノ)ハ左(サ)ノ如(ゴト)シ

答　學歩(マナビノアユミ)の進(スヽ)む事(コト)よ。

學(マナ)ぶ事(コト)の樂(タノ)しさや。

希求辞(キキウジ)ハ我々(ワレ〳〵)が心(コヽロ)意(イ)ノ中(ウチ)ニ在(ア)ル所(トコロ)ノ冀望(ネガヒ)

問　命令辞ト云フハ如何

答　命令辞ハ我々ガ心意ノ中ニ希望ヲ萬ノ事ヲ他人ニ命ジテ其事ヲ為サシムルニ用フル辞類ヲ云フ

問　命令辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ挙ゲヨ

答　命令辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

問　よねなむ今一ツこそト云フ辞アリ此辞ノ我々ガ遣辞ニ見ルハ例ハ如何

答　命令辞ノ遣辞ニ見ルハ例ハ左ノ如シ

遊戯を止めよ。

學校に徃きね。

親に孝行せよ。

教師に習ひね。

問　禁止辞ト云フハ如何

答　禁止辞ハ我々ガ他人ノ作業ヲ見テ其事ヲ止メサセントト思フ心志ヲ言ヒ出スニ用フル辞類ヲ云フ

問　禁止辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ挙ゲヨ

答　禁止辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

な　そノ類

問　此辞ノ我々ガ遣辞ニ見ル、例ハ如何

答　禁止辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

學問を怠るな。

問　指示辞ト云フハ如何

答　指示辞ハ在ル所ノ事物或ハ往ク所ノ方角等ヲ他人ニ指シ示スニ用フル辞類ヲ云フ

問　指示辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ挙ゲヨ

答　指示辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

にへのがぞをは

問　此辞ノ我々ガ遣辞ニ見ル、例ハ如何

答　指示辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

こそなんなも

問　此辞ハ如何

答　此は究理書ぞ。

彼人は教師ぞ。

問　友と塾へ入る　師の許へ往く

答　現在辞ト云フハ如何

問　現在辞ハ現在ノ時ヲ示スニ用フル辞トスル

答　現在ハ目前ノ事ナリ故ニ作業ニテ言ハヾ其事ヲ為シテ在ルヲ云フ作業ノ時ハ尚ホ第三編ニ詳ナリ

問　現在辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ挙ゲヨ

答　現在辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

てなりなれ

問　此辞ノ我々ガ遣辞ニ見ル、例ハ如何

答　現在辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

習ひて。今讀む

學校に往くなり

問　過去辞ト云フハ如何

答　過去辞ハ過去ノ時ヲ示スニ用フル辞トス

過去トハ過ギ去リシ昔ノ事ナリ故ニ作業ニテ言ハヾ已ニ為シテ過ギタルヲ云フ作業

問　此辞ノ我ヤガ遣辞ニ見ル、例ハ如何

答　過去辞ノ遣辞ニ見ルハ例ハ左ノ如シ

學齢に為りき。
學歩は進みぬ。
遊歩に出でつ。
階級も陞りぬ。
運動を為ちつ。

問　将來辞ト云フハ如何

答　将來辞ハ未來ノ時ヲ示スニ用フル辞トスル後ノ事ナリ故ニ未ダ來タラザル後ノ事ヲ示スニ用フル辞トハ未ダ來ト

ノ時ハ尚ホ第三編ニ詳ナリ

問　過去辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ擧ゲヨ

答　過去辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

けりける　けん　けめ
き　ち　にき　にち
てきてち　ぬ　ぬる　ぬれ
つ　つる　つれ　たり　たる

たれ　過去辞ハ尚ホ此外ニ六個アリ

作業ニテ言ハバ今其事ヲ為シ始メントスル時ハ尚ホ

答　作業ノ時ハ尚ホ

ルヲ云フ第三編ニ詳ナリ

問　将来辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ挙ゲヨ

答　将来辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

む　此む。ハん

ト呼ブ

めまし　将来辞ハ尚ホ此外ニ九個アリ詳

ニ初學日本文典ニ説ケリ

問　此辞ノ我々ガ遣辞ニ見ル、例ハ如何

答　将来辞ノ遣辞ニ見ル例ハ左ノ如シ

必ず教師と為ん　必ず用られん

問　否不辞ト云ノハ如何

答　否不辞ハ其事ノ然カアラザルヲ示スニ用フル辞トス然カラズトハ例ヘハ見ズ聞カズト云フ如ク見ル事聞ク事ノアラザルヲ云フ

問　否不辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ挙ゲヨ

答　否不辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

ざらざりざるざれざぞ
ぬねでで

問　此辭ノ我々ガ遣辭ニ見ル、例ハ如何

答　否不辭ノ遣辭ニ見ル、例ハ左ノ如シ

學問を怠らぞ。
校則に背かぢ。

問　疑辭ト云フハ如何

答　疑辭ハ我々ガ心意中ノ疑惑即チ分明ニ知リ得ザル種々ノ思念ヲ言ヒ出スニ附テ用フル辭類ヲ云フ

問　疑辭ニ收ムル所ノ辭類ヲ擧ゲヨ

答　疑辭ニ收ムル所ノ辭類アリ其一個ニ二個ノ種類アリ其一個ヲ體言ノ如ク活用ナキ者トシ其一個ヲ用言ニ似テ格ヲ有ツ者トス用言ノ格ハ第三編ニ說クベシ體言ノ如キ疑辭ハ

なにいついづれいくたれ

たが
用言ニ似タル疑辞ハ
かかもやもなどいかに
問　此二種ノ疑辞ノ我々ガ平生ノ遣辞ニ見ル
　例ヲ各別ニ示セ
答　二種ノ疑辞ノ中體言ノ如キ辞類ノ平生ノ
　遣辞ニ在ル者ハ左ノ如シ
　彼はなにを
　此人はたれ
　用言ニ似タル辞類ノ平生ノ遣辞ニ在ル者
　ハ左ノ如シ
問　學校に往くか。
答　洋書を教ふや。
問　反辞ト云フハ如何
答　反辞ハ疑辞ノ一變シタル者ニシテ其言ヒ
　出ス思想ハ變リテ其裏ニ戻ル者トス裏ニ

戻ルト云フハ例ヘバ讀ムト言ヒテ讀マザル義ニ反リ習フト言ヒテ習ハザル意ニ落ル類ヲ云フ

問　反辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ擧ゲヨ

答　反辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

かは　やは

問　此辞ノ我々ガ遣辞反辞ノ遣辞ニ見ルハ例ハ如何

答　學問を廢む可きかは
懶惰を為す可きかは

問　兩辞ト云フハ如何

答　兩辞ハ二個ノ事物ヲ兼タルニ用フル辞ト
ス二個ノ事物ヲ兼ヌトハ此事ノ彼事ヲ兼ネ此人ノ彼人ニ渉リテ其事物ヲ單一ニ見
サヌ者ヲ云フ

問　兩辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ擧ゲヨ

答　兩辭ニ収ムル所ノ辭類ハ左ノ如シ

と　ども　だに　ながら

も　つゝ　さへ　そら

問　此辭ノ我々ガ遣辭ニ見ルヘ例ハ如何

答　兩辭ノ遣辭ニ見ル、例ハ左ノ如シ

友と競て學ぶ

讀みつゝ行く

問　分量辭ト云フハ如何

答　分量辭ハ事物ノ分量ヲ示スニ用フル辭ト

ス分量トハ其事物ノ輕。重。多。少。及ビ其概量

ヲ云フ

問　分量辭ニ収ムル所ノ辭類ヲ擧ゲヨ

答　分量辭ニ収ムル所ノ辭類ハ左ノ如シ

ほど　のみ　まで　ばかり

問　此辭ノ我々ガ遣辭ニ見ル、例ハ如何

答　兩辭ノ遣辭ニ見ル、例ハ左ノ如シ

此ほど教授せ　彼ほど勉強せ
洋書のみ讀む　横文のみ習ふ

問　想像辭ト云フハ如何
答　想像辭ハ事物ノ想像ヲ呼ブニ用フル辭ト
ス想像トハ心意ノ中ニ彼ハ歟カ在ラン此ハ斯ク在ラントヲ推シ量ル思想ヲ云フ

問　想像辭ニ収ムル所ノ辭類ヲ擧ゲヨ
答　想像辭ニ収ムル所ノ辭類ハ左ノ如シ

らん　らめ
めれ　まじ
まじく　まじき

問　此辭ノ我々ガ遣辭ニ見ル、例ハ如何
答　想像辭ノ遣辭ニ見ル、例ハ左ノ如シ

彼人に問らん　彼人は知らん
雪は零るまじ　風は吹くまじ

問　炎定辭ト云フハ如何
答　炎定辭ハ作業ノ炎定ヲ示スニ用フ炎定ト

ハ己ニ事ノ一ニ定リタルヲ云フ

問　炎定辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ挙ゲヨ

答　炎定辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

べく　べき　べきノ類

問　此辞ノ我々ガ遣辞ニ見ル、例ハ如何

答　炎定辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

師命に従ふべき　學則を守るべき

問　比准辞ト云フハ如何

答　比准辞ハ此ヲ彼ニ準フル作業ニ用フル辞トス準フトハ此物ヲ以テ假ニ彼物ノ列ニ並べ見ルヲ云フ

問　比准辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ挙ゲヨ

答　比准辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

ごとく　ごとき

問　此辞ノ我々ガ遣辞ニ見ル、例ハ如何

答　比准辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

彼(ア)の童子(ドウジ)は長者(オトナ)のごとし

彼(ア)の學校(ガクカウ)は官衙(ヤクシヨ)のごとし

問　助辭(ジヨジ)ト云(イ)フハ如何(イカニ)

答　助辭(ジヨジ)ハ辭(コトバ)ノ足(タ)ラザルヲ補(オギナ)ヒ句(ク)ノ調(トノ)ハザルヲ助(タス)クルニ用(モチ)フル辭類(コトバ)ヲ云(イ)フ

問　助辭(ジヨジ)ニ収(ヲサ)ムル所(トコロ)ノ辭類(コトバ)ヲ擧(ア)ゲヨ

答　助辭(ジヨジ)ニ収(ヲサ)ムル所(トコロ)ノ辭類(コトバ)ハ左(サ)ノ如(ゴト)シ

問　此(コノ)辭(コトバ)ノ我々(ワレワレ)ガ遣辭(ツカフコトバ)ニ見(アラハ)ルヽ例(レイ)ハ如何(イカニ)

答　助辭(ジヨジ)ノ遣辭(ツカフコトバ)ニ見(アラハ)ルヽ例(レイ)ハ左(サ)ノ如(ゴト)シ

縁(エン)に右(ウヘ)。庭(ニハ)つ鳥(トリ)

上(カタ)つ方(シタ)。下(シタ)つ方(カタ)

問　句頭接辭(クトウセツジ)ト云(イ)フハ如何(イカニ)

答　句頭接辭(クトウセツジ)ハ常(ツネ)ニ句頭(クノカシラ)ノミニ置(オキ)テ用(モチ)フル辭(コトバ)ノ類(バ)ヲ云(イ)フ

問　句頭接辭(クトウセツジ)ニ収(ヲサ)ムル所(トコロ)ノ辭類(コトバ)ヲ擧(ア)ゲヨ

答　句頭接辞ニ収ムル所ノ辞ニ二個ノ種類ア
リ其一個ヲ發語ニ用フル義ナキ者トス發語ニ
一個ヲ體言ノ如ク活用ナキ辞ハ
用フル義ナキ辞ハ

い　ま　み　さ
か　そ　を　け

體言ノ如ク活用ナキ辞ハ
もなはち　かならず　かならずしも　かるがゆゑ

問　此二種ノ句頭接辞ノ我々ガ平生ノ遣辞ニ
見ル、例ヲ各別ニ示セ

答　二種ノ句頭接辞ノ中發語ニ用フル辞類ノ
平生ノ遣辞ニ在ル者ハ左ノ如シ

さ夜中
さ夜衣
を山田
を擲

體言ノ如キ辞類ノ平生ノ遣辞ニ在ル者ハ

左ノ如シ

かならぞ讀む

そこぶる熱ㇾ

問　一種接辭ト云フハ如何

答　一種接辭ハ上ニ擧タル嘆辭以下十八種中ニ入レ難キ辭類ヲ云フ

問　一種接辭ニ收ムル所ノ辭類ヲ擧ゲヨ

答　一種接辭ニ收ムル所ノ辭類ハ左ノ如シ

かならぞ習ふ

そこぶる寒ㇾ

問　一種接辭ト云フハ如何

答　一種接辭ハ其人ニ對シテ崇敬ヲ示スニ用フル辭トス崇敬トハ崇メ敬フヲ云フ

問　崇敬辭ト云フハ如何

答　崇敬辭ハ其人ニ對シテ崇敬ヲ示スニ用フル辭トス崇敬トハ崇メ敬フヲ云フ

問　學ばれは。惑ふ

答　學べば。覺悟る

問　學校より歸る

答　未明より出づ

問　此辭ノ我々ガ遣辭ニ見ルヽ例ハ如何

答　一種接辭ノ遣辭ニ見ルヽ例ハ左ノ如シ

ばより　から　ゆゑ　か　ぢ　ノ類

問　崇敬辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ挙ゲヨ

答　崇敬辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

まゐ　まつる　たてまつる

たまふ　はべる　まゐらせノ類

問　此辞ノ我々ガ遣辞ニ見ル、例ハ如何

答　崇敬辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

讀書を為たまふ　習字を為たまふ

教授を為はべる　教へたてまつる

問　漢辞以下二十種ノ接辞ハ日語或ハ文章ニ於テ用ヒザル事能ハザルカ

答　然リ

問　何ヲ以テ然ルカ

問　崇敬辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ挙ゲヨ
答　崇敬辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ
まゐ　まつる　たてまつる
たまふ　はべる　まゐらせノ類

而ノ此辞ハ本ト初編ニ於テ示シタル第一條ト第五條ノ作用言ニテ皆活用アル辞類ナレバ自ラ普通ノ接辞トハ其趣ヲ異ニセ

讀書を為たまふ　習字を為たまふ
教授を為はべる　教へたてまつる

問　漢辞以下二十種ノ接辞ハ日語或ハ文章ニ於テ用ヒザル事能ハザルカ

答　然リ

問　何ヲ以テ然ルカ

答　接辞ハ體言用言ヲ連續ル緊要ノ辞ナルヲ以テ其口語ト文章ニ論ナク炎シテ用ヒザルヲ得ザルナリ

問　體言ヲ以テ物體ヲ示シ用言ヲ以テ其用ヲ示サバ體用炙ニ備ル亦接辞ノ羨接ヲ待タズシテ連續クベキガ如シ然ルモ尚ホ接辞ヲ用ヒザルカ

答　體言用言ノ接辞ニ於ケルハ之ヲ物ニ譬フルニ猶人ノ兩岸ニ立テ舟ヲ俟ツガ如シ兩岸近ク相對ヒテ睫眉ノ相臨ム如キモ舟ヲ往來シテ之ヲ通ズルヿ無キ片ハ一帶ノ水ニ阻メラレテ互ニ其意ヲ達スルヿ能ハズ今接辞ノ體言用言ノ間ヲ接續ルハ猶此舟ノ兩岸ノ間ヲ往來スルガ如シ

問　洋書或ハ漢籍ヲ讀ムニ轉讀法ニ因ラズシテ直讀スル者アリ斯ノ如キハ接辞ヲ用ヒ

ズト雖モ却テ能ク其義ヲ會得シテ誤ラザル者ハ如何

答

洋書漢籍ヲ直讀スルニハ接辭ヲ用ヒズト雖モ其書ノ義ヲ心ニ解クニ至テハ必ズ接辭ヲ加ヘザル可ラズ若シ接辭ヲ加ヘザル片ハ炎シテ其義ヲ解クヿ能ハザルナリ今試ニ左ニ一例ヲ示ス

Grammar is necessary to learn

此洋文ヲ一下直讀スストモ其義ヲ心ニ解クヿ能ハズ「グラン」ト「ノボウヨミニ」ト「ヒトクダリ」ト「ヒトツノレイ」ト「ヲ」ト「ニ」ト「テハ」ト「ヲ」ト「ノ」ト「ヲ」ト「ヲ」ト「ニ」ト「ヲ」ト「ヲ」ト「ノ」ト「ヲ」ト「ヲ」ト「ヲ

問　此漢文ノ文典在初學最不易習マタ學校謂教訓子弟之處ト一下直讀スル其義ヲ心ニ説クニ至テハ「文典は初學に在りて最も習ひ易からず。」「學校は子弟を教訓る處を謂ふ」ト云フ如ク必ズは。指示て。現在ぜ否不等ノ接辭ヲ加ヘザレバ其義ヲ解クヿ能ハザル　ナリ

答　各種ノ接辭ノ體言或ハ用言ニ續クニ直接スル者アリ又間接スル者アリテ其形一樣ニシテ區別ナキヤウ　ナラズ

問　接辭ノ直接ト云フハ如何

答　接辭ノ直接ハ體言或ハ用言ニ直ニ連續ク者ヲ云フ

問　接辭ノ間接ト云フハ如何

答　接辞ノ間接ハ接辞ノ用言ニ連續ク二辞ノ隔テ又ハ句ヲ隔テ、連續ク者ヲ云フ

問　接辞ノ直接スル例ヲ示セ

答　接辞ノ直接スル例ハ左ノ如シ

體言ニ直接スル例

翔り𤏋鳥

走り𤏋獣

蚊ひ𤏋虫

轉り𤏋鶯

睡り𤏋猫

飛び𤏋蛍

泳ぎ𤏋魚

榮え𤏋樹

枯れ𤏋草

用言ニ直接スル例

躍り𤏋鯉

磬り𤏋梅

靡き𤏋薄

鳥は翔る

獣は走る

虫は蚊ふ

魚は泳ぐ

鶯は囀る

猫は睡る

蛍は飛ぶ

鯉は躍る

問　接辞ノ間接スル例ヲ示セ

答　接辞ノ間接スル例ハ左ノ如シ

辞ヲ隔テ、間接スル例

鳥は空に翔る
獣は山を走る
虫は花の間を飛ぶ
魚は水に泳ぐ
樹は林に栄ゆ
草は野に枯る

句ヲ隔テ、間接スル例

鳥は雲の中に翔る
獣は山の間を走る
虫は土の上を蚊ふ
魚は水の中に泳ぐ
鯉は淵に躍る
梅は室に馨る
薄は風に靡く

樹は栄ゆ
草は枯る

接辞ノ間接スル例ヲ示セ

梅は馨る
薄は靡く

接辞ノ間接スル例ハ左ノ如シ

鳥は空に翔る
獣は山を走る
虫は花に蝶る
猫は膝に睡る
蛍は澤に飛ぶ

問　接辞ノ直接ハ體言用言ノ二個ニ渉レリ而メ間接ノ用言ノミニ在リテ體言ニ無キハ如何

答　接辞ハ用言ニハ間接スレ𪜈體言ニハ間接スル能ハズ如何トナレバ接辞ノ體言ニ連續スルニ辞或ハ二辞三辞ヲ間ニ夾ムヿアリト雖モ夾ム所ノ辞ハ皆其體言ヲ形容スル詞ナレバ一個ノ長語ノ體言ト看做ス

樹は夏の林に栄ゆ
草は冬の野に枯る
鶯は梅の花に轉る
猫は客の膝に睡る
蛍は萍の上に飛ぶ
鯉は淵の中に躍る
梅は室の内に馨る
鶯は秋の風に囀ル

問　一句ノ詞ニシテ體言ト呼ブ者ヲ以テナリアリ詳ニ初學日本文典ニ説ケルガ如シ

答　接辭ノ體言ニ連續クニ一辭或ハ二辭三辭ヲ其間ニ夾メル例ヲ擧ゲヨ

問　接辭ノ一辭或ハ二三辭ヲ中間ニ夾ミテ下ノ體言ニ連續クハ左ノ例ノ如シ

一辭ヲ中間ニ夾メル例

鳥の翔り去る空。　獸の走り去る奥山。　魚の泳ぎ去る河。　虫の蚊ひ去る塵塚。

草の枯れ去る冬野。　鶯の囀り去る小枝。　猫の睡り去る小膝。　蛍の飛び去る野澤。

樹の栄え去る夏山。

鯉の躍り𤍠蒼淵。
梅の馨り𤍠臘夜。
薄の靡き𤍠秋野。

二 辞或ハ三辞ヲ中間ニ夾メル例

鳥の翔り𤍠春の空。
獣の走り𤍠冬の山。
虫の蚊ひ𤍠草の原。
魚の泳き𤍠秋の河。
樹の栄え𤍠夏の山。
草の枯れ𤍠冬の野。
鶯の囀り𤍠山家の梅。
猫の睡り𤍠賓客の膝。
蛍の飛び𤍠野澤の萍。
鯉の躍り𤍠山河の淵。
梅の馨り𤍠臘月の夕。
薄の靡き𤍠山家の庭。

問　中間ニ夾ム辞ハ二辞三辞等ト云フ定數アリヤ

答　中間ニ夾ム辞ニ定レル數ナシ故ニ多キハ或ハ數十句ニ至ルアルベシ左ニ擧ル所ノ例ヲ推シテ其他ヲ準ラヘ知ルベシ

六辞ヲ中間ニ夾メル者

鳥の翔り去る長閑に晴たる空

七辞ヲ中間ニ夾メル者

獣の走り去る紅葉隙無き秋の山

八辞ヲ中間ニ夾メル者

虫の蛙ひ去る露滋く置き渡たる野

九辞ヲ中間ニ夾メル者

魚の泳ぎ去る緑色に淀める山間の川

問　前ニ接辞ノ體言ニ連續クニ二辞或ハ三辞ヲ中間ニ夾ムアリト雖モ夾ム所ノ辞ハ形容詞ナリト答ヘキ然ラバ體言ニ直接ス

答

ル接辞ハ亦其體言ヲ形容スルニ非ズヤ

黙リ故ニ體言ニ直接スル接辞ハ亦皆其體言ヲ以テ呼ブ所ノ事物ヲ形容スル辞ヲ續クルナリ即チ上ニ擧ゲタル例ヲ再出シテ其形容セシ形ヲ示ス

翔リ去。鳥ニ翔ル者アリ故ニ鳥ノ形容詞トス

走リ去。獣ニ走ル者アリ故ニ獣ノ形容詞トス

蛟ひ去。虫ニ蛟フ者アリ蛟ハヌ者ノ形容詞トス

泳ぎ去魚ニ泳グ者アリ故ニ魚ノ形容詞トス

栄え去樹ニ栄ル者アリ栄エヌ者アリ故ニ樹ノ形容詞トス

枯れ去草ニ枯ル者アリ枯レヌ者アリ故ニ草ノ形容詞トス

囀り去鶯ニ囀ル者アリ囀ラヌ者アリ故ニ鶯ノ形容詞トス

睡り去。猫ニ睡ル者アリ睡ラヌ者アリ故ニ猫ノ形容詞トス

飛び去。蛍ニ飛ブ者アリ飛バヌ者アリ故ニ蛍ノ形容詞トス

躍り去。鯉ニ躍ル者アリ躍ラヌ者アリ故ニ鯉ノ形容詞トス

馨り去梅ニ馨ル者アリ馨ラヌ者アリ故ニ梅ノ形容詞トス

問

靡き名薄（ナビキナスキ）　薄（アリ）ニ靡ク者アリ靡カヌ者アリ故ニ薄ノ形容詞トス

體言（テイゲン）ニ直接（チョクセツ）スル接辞（セツジ）ハ其體言（ソノテイゲン）ヲ以テ呼（ヨ）ブ所（トコロ）ノ事物（コト、モノ）ヲ形容（ケイヨウ）スル者（モノ）ナリトセバ其中間（ソノアヒダ）ニ夾（ハサ）ム所（トコロ）ノ辞句（コトバ）ノ有無（アリナシ）ニハ関係（カヽハ）ルコトナキカ

答

然（シカ）リ辞句（コトバ）ノ中間（アヒダ）ニ有（ア）ルト無（ナ）キトニ關（カヽハ）ラズ故（ユエ）ニ辞句（コトバ）ノ在（ア）ル中間（アヒダ）ハ中間ノ辞句（コトバ）ヲ併（アハ）セテ皆（ミナ）其事物（ソノコト、モノ）ヲ形容（ケイヨウ）スル詞（コトバ）ナリ則（スナハ）チ左

ノ例（レイ）ヲ見（ミ）ヨ

問

鳥（トリ）の翔（カケ）り名（ナ）長閑（ノドカ）ニ晴（ハレ）タル空（ソラ）。

獣（ケモノ）の走（ハシ）り名（ナ）紅葉隙（モミヂヒマ）無（ナ）キ秋（アキ）の山（ヤマ）。

是（コ）レ共（トモ）ニ其空（ソノソラ）ト山（ヤマ）トノ形容（ケイヨウ）ヲ見（アラハ）シ、詞（コトバ）ナリ

答

初編（シヨヘン）ニ於（オイ）テ事物（コト、モノ）ノ形容（ケイヨウ）ヲ呼（ヨ）ブハ用言（ヨウゲンノウチ）中ノ形状言（ケイジヤウゲン）ト為（セ）リ然（シカ）ルニ接辞（セツジ）ニモ亦（マタ）形容（ケイヨウ）ヲ見（アラハ）ス者（モノ）アリト為（ナ）スカ

答　初編ニ於テ説タル形状言ハ轉變ノ活用アリテ形容ノミヲ呼ブ辞類ナリ接辞ノ如キハ形容ヲ見スニ非ズ只其用法ニ因テ形容辞ヲ兼テ體言ニ連續ルコアリ因テ亦形容詞ニモ變ルコアルナリ

問　用法ノ變化ニ因テ事物ノ形容ヲ示ス者ハ接辞ノミニ局ルカ否。接辞ヲ以テ直ニ形容詞ト為スニ非ズ接辞ハタヾ其接續ヲ為スノミニシテ形容ハ他辞ニ在ル者ナリ故ニ體言ノ形容スル者アリ作用言ノ形容スル者アリ大凡形容トハ其事物ノ形状容様ニシテ形容詞ハ之ヲ呼ブ斯ノ詞ナリ

問　體言ノ形容スル例ハ如何

答　四種ノ體言ノ形容スル例ハ左ノ如シ

花の都

月の夜

問　作用言ノ形容スル例ハ如何

答　作用言ノ形容スル例ハ左ノ如シ

讀ム書ヲ　習ふ業ナラ
着る衣キ　煮る茶ニ
晩る鞠マリ　綜る絲イト

春の花ハル　秋の月ツキ
學の窓マド　仕の身ミ
我が國ワ　汝が家ナンヂ

問　接辞ノ形容辞ヲ兼テ體言ニ接續ケ因テ其事物ヲ形容スル例ハ如何

答　接辞ノ媒介シテ形容辞ヲ體言ニ續クルハ前ニ擧タル花の都「ハナノミヤコ」月の夜ト云ヘル指示辞ノ即チ是ナリ然レ𪜈尚ホ其例ヲ擧ゲバ

恨る人ウラム　起る頃オク
教る人ヲシフ　秀る人ヒイヅ
居る人ヲ　徙る客イヌ

左ノ如シ

醉たる人（エヒ＝ヒト）
來つる人（キ＝ヒト）
養ぬる犬（カヒ＝イヌ）
飼ひ𤏋鳥（カ。トリ）
讀ける書（ヨミ＝シヨ）
直なる竹（スグ＝タケ）
見ざる男（ミ＝ザル＝ヲトコ）

乘たる車（ノリ＝クルマ）
徃つる客（イニ＝キヤク）
過ぬる人（スギ＝ヒト）
放ち𤏋魚（ハナ。ウヲ）
習ける字（ナラヒ＝モジ）
徃べき家（イヘ＝ベキ＝イヘ）
知ざる女（シラ＝ザル＝ヲンナ）

今來ん年（キタ。トシ）
徃べき家（ユク＝ベキ＝イヘ）
晴れぬ空（ハレ。ソラ）

今散ん花（チラ。ン＝ハナ）
訪べき人（トフ＝ベキ＝ヒト）
曇らぬ月（クモ。ラヌ＝ツキ）

日本文法問答二編　終（ニホンブンパフモンダフ）

日本文法問答

三編目次

第五回

言語論ノ下

遣辞ノ不規則

自他ヲ轉倒スル例

上二段ノ活用

上二段活辞ノ変

下二段ノ活用

下二段（シモニダン）
四段（ヨダン）ニ働ク（ハタラク）辭類（コトバ）
上一段（カミイチダン）ニ働ク辭類
下一段（シモイチダン）ニ働ク辭類
上二段（カミニダン）ニ働ク辭類
下二段（シモニダン）ニ働ク辭類
變格（ヘンカク）ニ働ク辭類
單辭（タンジ）ニ働ク辭類
下二段活辭（シモニダンノハタラキコトバ）ノ變（カハリ）
複辭（フクジ）ニ働ク辭類
作用言（サヨウゲン）ノ格（カク）
形狀言（ケイジャウゲン）ノ格
將然格（シャウゼンカク）ノ例（レイ）
連用格（レンヨウカク）ノ例
假體格（カタイノカク）ノ例
截斷格（セツダンノカク）ノ例
連體格（レンタイノカク）ノ例

已然格ノ例（イゼンノカク）
活辞ノ時（ハタラキコトバ）（トキ）
時刻ヲ誤ル例（トキ）（アヤマ）（レイ）
時刻ノ照應（トキ）（ミアハセ）
時刻ノ用法（トキ）（モチヒカタ）

日本文法問答三編（ニホンブンパフモンダフサンペン）

豐後　物集高見　著

第五回　言語論ノ下（ダイゴクワイ）（ゲンギョロン）（シモ）

問

體言用言接辞ノ三品種ノ性質及ビ其用法（テイゲンヨウゲンセッジ）（サンピンシュ）（セイシツオヨ）（ソノモチヒカタ）

ハ前編ニ於テ略之ヲ了解セリ然レ𪜈未ダ三品辞ノ性質ト用法トニ通ズルヲ以テ自（ゼンペン）（オイ）（ホボコレ）（レウカイ）（シカ）（イマ）（サンピンジ）（セイシツ）（モチヒカタ）（ツウ）（モッ）（ジ）

他ノ別ヲ失ハズ時刻ノ差ヲ誤ラザルニ至ルベキヤ否ヤヲ識ラズ尚ホ詳ニ其義ヲ解（ワカチ）（ウシナ）（トキ）（タガヒ）（アヤマ）（イナ）（シ）（ナ）（ツビラカ）（ソノ）（ワケ）（トキ）

答　説セヨ自他及ビ時刻ノ談ハ初編ノ總論ニ出ヅ

三品辞ノ性質ト用法トニ明晰ナル片ハ自他或ハ時刻等ヲ誤ラザルニ至ルベキヤ疑フ可ラズ然レモ其誤ラザルヲ知ルニ至ルハ誤ル者ヲ知リテノ後ニ在リ

問　誤ル者ヲ知ルト云フハ如何

答　我々ガ平生ニ用フル言語ニ於テ正シカラザル片ヲ知ルト云フナリト知リ不規則ナリト識ルヲ云フ

問　我々ガ平生ニ用フル所ハ如何

答　我々ガ平生ノ遣辞ニ於テ正シカラザル者ハ數多アリト雖モ今先ヅ其要タル所ヲ撮ミテ試ニ之ヲ左ニ示スベシ

吾人ノ平生ノ遣辞ニテハ敵を退くるヲ退けるト呼ビ盃を傾くるヲ傾けるト呼

ビ間を隔つるヲ隔てるト呼ビ樓を建つる建てるト云フ自他ノ別ト云フ而メ退くる傾く能動活辞ノ解ス故ニ此四綴ニハ缺ケ

答

是レヲ自他ノ別ト云フ而メ退くる傾く能動活辞ヲ以テ退ける傾ける隔て建てるト云フ自動活辞ニ呼ビ做ス

隔つる建つるハ我ガ為ス作業ニテ是レヲ他ノ為ス作業ヲ呼ブトノ差別アリテ編ニモ準タリ大凡言語ニハ我為ス作業ヲ呼ブヲ隔てるト呼ベリを。ト云フ文字ニ意ヲ注クベシを。ハ初

領クーヲ得ル

我れ彼敵を退くるに此策を用ふ

我れ彼盃を傾くるに此術を用ふ

我れ彼間を隔つるに此幕を用ふ

我れ彼樓を建つるに此材を用ふ

然ルニ此退くる傾くる隔つる建つるトヲ以テ退ける傾ける隔て建てるト云フ自動活辞ニ呼ビ做ス

ハ則チ自他ノ差別ヲ誤リ彼我ノ義ヲ轉
倒スル者ナリ如何トナレバ退ける傾け
る隔てる建てるハ他ノ自ラ為ス作業ニ
テ我ガ自ラ為ス作業ニハ非ザルヲ以テ
ナリ故ニ此四辞ニハ左ノ如クの。ノ。ト云
ニ意ヲ注クベシ。ハ初ト云フ文字
編ニ挙タルが。ニ同ジ
ニ領クルヲ得
彼ノ歟。
退けるは此策に因れり

彼の盃の傾けるは此人に因れり
彼の間の隔てるは此幕に因れり
彼の樓の建てるは此材に因れり
斯ノ如ク我ガ為ス作業ヲ呼ブ辞ノ知ラ
ズ識ラズ他ノ為ス作業ヲ呼ブ辞ニ変ズ
ル片ハ我ガ撃ツハ他ノ撃ツニ変ジ我ガ
聞クハ他ノ聞クニ変ジ我ガ樂ムハ他ノ
樂ムニ変ジ我ガ好ムハ他ノ好ムニモ変

ズベシ此例ヲ以テ推スキハ一言ノ下ニ

於テ我ガ所有物ノ他ノ所有物ト変化シ

去ルモ亦決シテ之レ無シト為スヿ能ハ

ザルベシ言語ノ學豈夫レ之ヲ輕視スル

ヲ得ベケンヤ

問

我々ガ平生ノ遣辞ニ於テ自他等ノ錯誤ハ

三品辞ノ中大抵何種ノ辞類ニ多シト為ス

カ

答

三品辞ノ中用言ト接辞トニ在リ而メ用言

ニ在ル者常ニ甚シトス

問

用言ノ中ニ於テハ作用言ニ多キカ

答

用言ノ中作用言ニ多シ

問

作用言ハ六條皆誤ルカ

答

作用言ノ中誤ル者アリ誤ラザル者アリ四

條上ニ五條下ニ段ノ活辞ノ如キハ總テ誤レ

リトス

問　四條五條ハ何ノ法ヲ誤ルカ

答　四條五條ハ共ニ其活辞ノ轉変ノ法ヲ誤ル

問　四條五條ノ活辞ノ誤レル轉変ハ如何

答　四條五條ノ中先ヅ四條ノ活辞ヨリ示スベシ然レドモ其誤レル者ノミヲ擧ゲテ誤ラザル者ヲ擧ゲザルキハ一目瞭然ナラズ故ニ正シキ者ト正シカラザル者トヲ供セテ之

ヲ左ニ掲グ

作用言第四條即チ上二段活辞ノ轉変

起	おき	おく	おくれ
落	おち	おつ	おつれ
媚	こび	こぶ	こぶれ
恨	うらみ	うらむ	うらむれ
報	むくい	むくゆ	むくゆれ
懲	こり	こる	こるれ

此活辞ヲ吾人ガ平生ノ遣辞ニテハ左ノ如ク第二條上一段ノ轉ジニ変ゼリ

起	おき	おきる　おきれ
落	おち	おちる　おちれ
媚	こび	こびる　こびれ
恨	うらみ	うらみる　うらみれ
報	むくい	むくいる　むくいれ
懲	こり	こりる　こりれ

問　五條ノ活辞ノ誤レル轉変ヲ挙ゲヨ

答　五條ノ活辞モ四條ノ例ニ倣テ其誤ラザル者ト誤レル者トヲ併セテ左ニ之ヲ掲グ

作用言第五條即チ下二段活辞ノ轉変

得	え	うる　うれ
受	うけ	うく　うくる　うくれ
失	うせ	うす　うする　うすれ
捨	すて	すつ　すつる　すつれ

尋　たづね　たづぬ　たづぬる　たづぬれ
與　あたへ　あたふ　あたふる　あたふれ
譽　ほめ　ほむ　ほむる　ほむれ
燃　もえ　もゆ　もゆる　もゆれ
破　やぶれ　やぶる　やぶるる　やぶるれ
植　うゑ　うう　うう　ううれ

此活辞ヲ吾人ガ平生ノ遺辞ニテハ左ノ如ク第三條下一ノ轉ジニ変ゼリ

得　え　える　えれ
受　うけ　うける　うけれ
失　うせ　うせる　うせれ
捨　もて　もてる　もてれ
尋　たづね　たづねる　たづねれ
與　あたへ　あたへる　あたへれ
譽　ほめ　ほめる　ほめれ
燃　もえ　もえる　もえれ

破　やぶれン　やぶる　やぶれル

植　うゑン　うゑる　うゑれ

問　四條五條ノ活辭ハ此所ニ擧タル起く落つ
得受くノ類ノ三轉變ヲ誤レルナルカ

答　否。此所ニ擧タル者ハ其條々ノ一例ニシテ
四條五條ノ活辭ハ總テ此例ノ如ク誤レル
者ナリ

問　大九四條ノ活辭ハ其數幾許アリヤ

答　余ガ曩ニ著シ、日本辭典ニ標テ概算スレ
ハ四條五條ノ活辭ノ如キハ一千ノ上ニ出
デズ

問　第一條即チ四段ヨリ第五條即チ下二段ニ
至ルマデノ段々ニ活用スル辭類ヲ擧ゲヨ

答　四段ヨリ下二段ニ至ル迄ノ活辭ハ大數ニ
シテ一々ニ擧ルニ能ハズ故ニ今ハ只其二
三ノ例ヲ示スベシ　用言即チ作用形狀ノ活
辭ハ余曩ニ日本小辭典

ヲ著レテ盡ク纂集セリ就テ見ルベシ

四段ニ活用スル辞

飽く　欺く　仰ぐ　行く　抱く

嘶く　動く　驚く　傾く　聞く

退く　歎く　磨く

吹く　開く

解く　泣く

抜く

押す　現す　焚く

懲す　示す　威す　睨す　犯す

訛す　倒す　虜す

催す　許す　渡す

隠す　明す　暮す　燻す

撃つ　穿つ　育つ　立つ　裁つ

保つ　放つ　待つ　持つ　過つ

勝つ　分つ　満つ　毀つ

逢ふ　遊ぶ　洗ふ　争ふ　誘ふ

歌ふ　浮ぶ　追ふ　思ふ　籠ふ

及ぶ　買ふ　競ふ　食ふ　隨ふ

救ふ　違ふ　習ふ　拂ふ
讀む　住む　圍む　汲む　好む
羨む　賴む　樂む　憤む　憎む
飲む　臨む　勵む　舍む　休む
凋む　巧む　進む　包む
曇る　餘る　怒る　憤る　偽る
送る　驕る　限る　止る　語る
馨る　降る　加る　畀る　歎る

契る　積る　走る　綴る
上一段ニ活用スル辭
着る　似る　煮る　干る　簸る　放る
見る
射る　鑄る　沃る
殿る　居る　率る　斷る

下一段ニ活用スル辭

蹴る
殖る
綜る

上二段ニ活用スル辭

起く　盡く　過ぐ　避く
落つ　閉づ　恥づ　憚づ　攀づ
強ふ　戀ふ　忍ぶ　婚ぶ　亡ぶ

下二段ニ活用スル辭

恨む　試む
老ゆ　悔ゆ　報ゆ
奮る　懲る

得
受く　預く　避く　妨ぐ　助く
告ぐ　遂ぐ　曲ぐ　擧ぐ　平ぐ
承く　焦ぐ　下ぐ　提ぐ　員く

答ふ　調ふ　蓄ふ　仕ふ　教ふ
唱ふ　捉ふ　存ふ　並ふ
褒む　改む　諫む　固む　醒む
定む　認む　勉む　攻む　咎む
治む　集む　嘗む　極む
榮ゆ　滅ゆ　覺ゆ　越ゆ　聳ゆ
絶ゆ　燃ゆ　吠ゆ　洩ゆ　瘠ゆ
崩ゆ　見ゆ　茁ゆ　萎ゆ

着ぐ　擲ぐ　授く
痩せ　失せ　載せ　馳せ　任せ
咽せ　拌ぜ　眴せ
捨つ　企つ　隔つ　秀づ　出づ
雑つ　茹づ　撫づ
重ぬ　束ぬ　尋ぬ　羞ぬ　委ぬ
洩ぬ　綰ぬ　駢ぬ　連ぬ
絆ふ　老ふ　堪ふ　與ふ　加ふ

溢る　怖る　溺る　暮る　枯る
汚る　尖る　廃る　戯る　流る
疲る　崩る　晴る　觸る　漏る
破る　塗る　濡る　免る
飢う　植う　居う　蹴う

問　第六條即チ作用変格ニ活用スル辞ハ左ノ如シ何ヲ作用変格ニ活用スル辞類ハ如

答　来　為　往ぬ　死ぬ　有る　居る　而メ此四段ヨリ変格ニ至ル迄ノ六條ニ擧タル辞ハ次編ニ於テ種々ノ歌文ニ綴リ出スコトアルヲ以テ其辞ハ幾條何段ノ活辞ナリト云フコトヲ心ニ記シテ忘ルヽ勿レ

問　次編ニ於テ綴リ出ス歌文ニ形状言ハ用フ

ルヿ無キヤ

答　形狀言ヲ用フルヿアリ

問　次編ニ形狀言ヲモ用ヒバ預メ其一條單辭ニ一條複辭ニ轉變スベキ辭ヲ示セ

答　一條ニ條即チ單辭複辭ハ左ノ如シ

形狀言第一條即チ單辭

青去　赤去　白去　黒去　熱去　寒去　辛去　苦去　醋去

厚去　薄去　長去　深去　淺去

短去　重去　輕去　遠去　近去

遲去　速去　狹去　廣去　高去

低去　易去　惡去　敏去　鈍去

難去　柔去　危去　荒去

形狀言第二條即チ複辭

樂去　悲去　怪去　悠去　惜ヲ去

寂去　涼去　正去　委去　乏去

久き　美き

均き　新き　卑き

睦き　親き

困き　病き　騒き

悪き　羞き

逞き　珍き　懐き

宜き　煩き

願き　欲き　紛き

貪き　空き

怕き　喧き

問　二編ニ於テ用言ニ

答　然リ　ハ此作用言形状言ノ格アリト言ヘリ用言ー

謂カ

問　作用言形状言ノ格ト云フハ如何

答　作用言形状言ノ格ハ其轉変ニ因テ或ハ續キ或ハ斷ルヽ等ノ格ヲ云フ

問　作用言形状言ノ續クト云フハ何ノ辞ニ續クヲ云フカ

答　體言或ハ用言ニ續クモノヲ云フ

問　作用言形状言ハ此續クト斷ルヽトノ外尚ホ多クノ格アリヤ

答　此斷續ノ外ニ尚ホ三個ノ格アリ

問　三個ノ格ハ作用言形狀言ニ於テ共ニ之レアリヤ

答　作用言ハ三個ノ格ヲ有チ形狀言ハ其中一個ノ格ヲ有テリ

問　作用言ノ有テル三個ノ格ハ何々ノ格ト為スカ

答　形狀言ノ有テル一個ノ格ハ何ノ格ト為ス

問　形狀言ノ有テル一個ノ格ハ何ノ格ト為スカ

答　形狀言ノ有テル一ツハ其作業ノ假ニ體言ノ形ヲ成セル格一ツハ其作業ノ已ニ卒レル格ヲ云フ

問　作用言形狀言ノ有ツ所ノ格ハ其名ヲ何々ト云フ

ト命クルカ

答 作用言形状言ノ有ッ所ノ格ノ名ハ左ノ如シ

四種ノ體言ニ續ク格ヲ連體ト云フ

二種ノ用言ニ續ク格ヲ連用ト云フ

續カズシテ斷ルヽ格ヲ截斷ト云フ

作業ノ始ントスル格ヲ將然ト云フ

假ニ體言形ヲ成ス格ヲ假體ト云フ

作業ノ已ニ卒レル格ヲ已然ト云フ

問 此六個ノ格ノ順序ハ如何

答 六個ノ格ノ順序ハ左ニ擧ル如シ

第一 將然

第二 連用

第三 假體

第四 截斷

第五 連體

第六 已然

問 此六個ノ格ノ作用言ニ見ル、例ヲ示セ

答 六個ノ格ノ作用言ニ見ル、例ハ左ノ如シ

第一（ダイイチ） 將然之格（シヤウゼンノカク） 其作業ノ今始ラントスル格

四段（ヨダン） 驚カン（オドロ）

今將ニ驚カントスルニ

未ダ驚タルニハ非ズ

上一段（カミイチダン） 見ン

今將ニ見ントスルニテ

未ダ見タルニハ非ズ

下一段（シモイチダン） 蹴ン

今將ニ蹴ントスルニテ

未ダ蹴タルニハ非ズ

上二段（カミニダン） 起キ

今將ニ起キントスルニテ

未ダ起タルニハ非ズ

下二段（シモニダン） 受ケン

今將ニ受ケントスルニテ

未ダ受タルニハ非ズ

変格（ヘンカク） 居ラン

今將ニ居ラントスルニテ

未ダ居タルニハ非ヘ

第二（ダイニ） 連用之格（レンヨウノカク） 作用言ニ續ク形状

四段 驚キ驚ク

驚キト云フ作用言ニ續ケリ

驚キト云フ形状言ニ續ケリ

上一段 見止ム

見ト云フヨリ止ムト云フ作用言ニ續ケリ

下一段 蹴難シ

蹴ト云フヨリ難シト云フ形状言ニ續ケリ

四段 驚キ易シ

驚キト云フヨリ易シト云フ形状言ニ續ケリ

下一段 蹴破ル

蹴ト云フヨリ破ルト云フ作用言ニ續ケリ

上一段 見苦シ

見ト云フヨリ苦シト云フ形状言ニ續ケリ

上二段 起キ出ヅ

起キト云フヨリ出ヅト云フ作用言ニ續ケリ

上二段 起キ難シ

起キト云フヨリ難シト云フ形状言ニ續ケリ

下二段（シモニダン）　受け取る（ウケトル）

下二段（シモニダン）　受け惡き（ウケニクキ）

変格（ヘンカク）　居り暮す（ヲリクラス）

変格　居り苦き（ヲリグルキ）

第三（ダイサン）　假體之格（カテイノカク）

四段（ヨダン）　驚き（オドロキ）

受けト云フけ。ヲリ取ルト云ノ作用言ニ續ケリ

受けト云フけヨリ惡シト云フ形狀言ニ續ケリ

居りト云フ。ヨリ暮スト云フ作用言ニ續ケリ

居りト云フりヨリ苦レト云フ形狀言ニ續ケリ

驚きにけり　係レルヘタルヲ以テナリ尚ホ小學日本文典ニ詳シ

○左ノ如ク指示辭ノに。ニ假ニ體言ノ形ヲ成ス格

上一段（カミイチダン）　見にけり

下一段（シモイチダン）　蹴にけり（ケ）

上二段（カミニダン）　起きにけり（キ）

下二段（シモニダン）　受けにけり（ウ）

変格（ヘンカク）　居りにけり（ヲ）

第四（ダイシ）　截斷之格（セツダンノカク）

四段（ヨダン）　驚く（オドロ）

上一段（カミイチダン）　見る

其作業ノ續カズシテ斷ルヽ格

四段活辭ハ第三ノ轉ジニ截斷ト連體ノ格ヲ有ツ

上一段活辭ハ總テ。ニ截斷連體ノ格ヲ有ツ

下一段（シモイチダン）　蹴（ケ）る

上二段（カミニダン）　起（オ）く

下二段（シモニダン）　受（ウ）く

変格（ヘンカク）　居（ヲ）る

第五（ダイゴ）　連體（レンタイ）之格（ノカク）

四段（ヨダン）　驚（オドロ）く　馬（ウマ）

上一段（カミイチダン）　見（ミ）る　我（ワレ）

下一段（シモイチダン）　蹴（ケ）る　鞠（マリ）

下一段活辭ノ終止形ハ「る」ニテ終ル。

モ上一段ニ同ジ

変格ノ居るハ截斷ト連體ノ格ヲ有ツ

續ク格

驚くト云フ「ヨリ馬ト云フ實體言ニ續ケリ

見るト云フ「ヨリ我ト云フ代名言ニ續ケリ

蹴るト云フ「ヨリ鞠ト云フ實體言ニ續ケリ

起くるト云フ「ヨリ時ト云フ虛體言ニ續ケリ

受くるト云フ「ヨリ教ト云フ假體言ニ續ケリ

居るト云フ「ヨリ人ト云フ實體言ニ續ケリ

第六（ダイロク）　已然之格（イゼンノカク）

○左ノ如ク兩辭ノ「ど」ニ一種接辭ノ「ば」ニ係レルハ其作業ノ已ニ卒レルニ因レリ尚ホ二編及ビ小學日本文典ヲ合セ見ヨ

上二段（カミニダン）　起（オ）くる時（トキ）ど

下二段（シモニダン）　受（ウ）くる教（オシヘ）ど

変格（ヘンカク）　居（ヲ）る人（ヒト）ど

第六（ダイロク）　已然之格（イゼンノカク）

四段（ヨダン）　驚（オドロ）けど　ば

上一段（カミイチダン）　見（ミ）れど　ば

下一段（シモイチダン）　蹴（ケ）れど　ども
上二段（カミニダン）　起（オ）くれば　ども
下二段（シモニダン）　受（ウ）くれば　ども
変格（ヘンカク）　居（ヲ）れば　ども

問　形状言（ケイジヤウゲン）ノ有（タモ）テル断続（キレツヾキ）等ノ格（カク）ノ数（カズ）ハ幾個（イクツ）アリヤ

答　形状言ノ有テル格ハ左ノ如シ

第一（ダイイチ）　連用（レンヨウ）

第二（ダイニ）　仮体（カタイ）

第三（ダイサン）　截断（セツダン）

第四（ダイシ）　連体（レンタイ）

問　形状言（ケイジヤウゲン）ノ有テル格（カク）ハ何（ナニ）ト何トナルカ

答　形状言ノ有テル格ハ四個（ヨッ）トス

問　此四個ノ格ノ形状言ニ見（ア）ル、例（レイ）ハ左（サ）ノ如（ゴト）シ

答　四個ノ格ノ形状言ニ見ル、例ヲ示セ

第一　連用

単辞（タンジ）　早（ハヤ）く進（スヽ）む　早くト云フ作用言ニ続ケリ

第一　連用之格（レンヨウノカク）　作用言形状言ニ続ク格

単辞　早く進む　早くト云フ作用言ニ続ケリ

早くト云フ（ヨリ）進ムト云フ形状言ニ続ケリ

早く熱（アツ）き　早くト云フ（ヨリ）熱シト云フ形状言ニ続ケリ

複辞 久く學ぶ
複辞 久く騒ぐ
第二 假體之格 ○左ノ如ク指示辞ノ下ニ係レル時ハ已ニ體ノ形ヲ具ヘタルヲ以テナリ尚ホ初學日本文典ニ詳ケリ
單辞 早さ。後る
單辞 早げ。思ふ
複辞 久さ。堪へ

久く ト云フ ヨリ學ブ ト云フ作用言ニ續ケリ
久く ト云フ ヨリ騒シ ト云フ形状言ニ續ケリ
假ニ體言ノ形ヲ為ス格ナリ

複辞 久げに見ゆ
形状言ハ單辞複辞共ニ其第一ノ轉ジ
ノさ。さト第五ノ轉ジノげ。げニ假
體ノ格ヲ有テ尚ホ其第二第三ノ轉
ジニモ有テレ圧其ハ初學日本文典ニ
説ケルヲ見ルベシ初編ノ用言ノ條ニ
見合ス
第三 截斷之格 續カズシテ斷ル、格
單辞複辞ノ解アリ

單辭　早き

複辭　久き

第四　連體之格體言ニ續ク格

單辭　早き馬

複辭　久き友

問　此作用言形狀言ノ格ヲ我々ガ平生ノ遣辭ニ於テ誤ルコトアリヤ

答　誤ルコトアリ

問　此格ヲ誤ル件ハ其遣辭ニ於テ不都合アリヤ

答　不都合アリ第一ニハ格ヲ誤レル言語ハ言ヒ難ク聞ク者ノ推量ヲ借ラザレハ其談ル人ノ思想ハ全ク通ゼザルナリ譬ヘバ車ニ載スル物又ハ人ヲ吠ユル犬ヲ見テ（彼の車に載せ物）（彼の人を吠ゆる犬）ト云フ件ハ載ス吠ユト云フ詞ハ下ニ

段ノ截断ナレバ切レテ物ト犬トニ連續ザルヲ聞キ人之ヲ聞キ咎メザルハ言フ者ノ意ヲ考ヘ前後ノ詞ヲ察シテ（載セ物）ハ載スル物（吠ゆ犬）ハ吠ユル犬ト云フ意ナラント推量シテ聞キ做セバナリ然レ𪜈我ガ意想ヲ言ヒ出ス大切ナル言語ヲ以テ他人ノ推量ニ任セ置クハ亦甚ダ危険ク且大不都合ノ至リナラズヤ

問　此載ス吠ユト云フ辞ハ作用言ナラズヤ

答　然リ前ニ出シ、作用言下二段ノ中ノ辞ナリ

問　我々ガ平生ノ遣辞ニ於テ形状言ノ格ヲ誤ル者ヲ示セ

答　形状言ノ格ヲ誤ル者ハ例ヘバ左ノ文章ノ如シ

此塾に通学をする童子は勉強をべく事

邦語を學ふは屬辭を第一とせべく事

べき ト云フ辭ハ接辭ニ收メタレ氏本來形狀單辭ノ變格ニテ形狀言ノ變格ハ小べく學日本文典ニ見ユト云フ時ハ連用ノ格トナレバ用言ノ外ニハ續カズ然ルヲ事ト云フ體言ニ係ケテべく事ト用ヒタルハ甚シキ誤リナリ若シ體言ニ續ケント欲セバ其連體ノ格ヲ用ヒテべき事ト云ハザル可ラズ前ニ擧タル連用連體ノ格ヲ見合スベシ尚ホ此類ノ誤リハ叢ニ余ガ著シヽ說話の心得ト云フ書ニ多ク載セタリ

問　我々ガ平生ノ遣辭ノ間違ハ大抵作用言形狀言ノ格ヲ誤ルヨリ生ズルカ

答　作用言形狀言ノ格ヲ誤ルノミナラズ言語ノ時ノ違フヨリ起ル

問　言語ヘ時ト云フハ如何

答　言語ニ罹ル萬ノ作業ノ時刻

ヲ云フ

問　説話ニ罹ル作業ノ時刻ト云フハ如何

答　說話ニ罹ル時刻ト云フハ説話ニ罹ル事ノ説話ヲ為ス時間ト同時又ハ其前後ニ在ル者ヲ云フ

問　此時刻ノ數ハ幾個アリヤ

答　時刻ノ數ハ普通ニ三個トス然レ𪜈細ニ數フル片ハ五個ニ分ル

問　先ヅ三個ノ時ノ名ヲ聞ン

答　三個ノ時ハ一ツヲ現在ト云ヒ一ツヲ未来ト云フ

問　現在ト云フハ如何

答　現在トハ説話ニ罹ル事ノ説話ヲ為ス時ト同ジ時間ニ在リテ過不及ナキヲ云フ例ヘバ讀ムト云フ作業ナレバ讀むなり　讀むなる

右ノ如ク云フ片ハ讀ム作業ハ今眼前ニ在ル者ナリ

問 過去ト云フハ如何

答 過去トハ說話ニ罹ル事說話ヲ為ス時ニハ已ニ過ギ去リタルヲ云フ例ヘバ讀ム ト云フ作業ナレバ讀みき讀みぬ 讀みつ讀みたり 讀めり

問 未來ト云フハ如何

答 未來トハ說話ニ罹ル事ノ說話ヲ為ス時ニハ未ダ來ラザル ヲ云フ例ヘバ讀ム ト云フ作業ナレバ讀まん 讀まじ

右ノ如ク云フ片ハ讀ム作業ハ已ニ疾々畢

ル者ナリ

問　此三個ノ時ハ如何ニシテ為スカ

答　現在時ヲ為スニハ現在辞ヲ附ケ過去時ヲ為スニハ過去辞ヲ附ケ未来時ヲ為スニハ将来辞ヲ附ク現在辞過去辞等ノ細分スル片解ハ二編ニ見ヨ

問　此三個ノ時ヲ細ニ数フルキハ五個ニ分ル

答　三個ノ時ハ普通ノ時ニテ之ヲ

ト云フハ如何

ハ過去ニ大過去ト想像過去トヲ見スベシ

問　大過去ト云フハ如何

答　大過去トハ過去辞ノ複リタルヲ云フ例ヘバ人ノ書ヲ讀タルヲ見ツトテ（彼の人は書ヲ讀みたりき）ト云フガ如ク讀ミタル事ノ已ニ過去ナルヲ云フ尚ホ其例ヲ掲ゲバ

讀みたりき

讀みたりぬ

讀みに。けり

讀みたりけり

讀みたり。

讀みたり去か

問　想像過去ト云フハ如何

答　想像過去トハ過去辭ニ想像辭ノ榎リタル

ヲ云フ例ヘバ彼ノ人ハ已ニ彼書ヲ讀ミタ

ラント思ヒテ（彼の人は彼の書を讀みつら

ん）ト云フガ如ク其讀ム作業ノ今ハ已ニ

過去ニ屬タラント思ヒ遣ルヲ云フ尚ホ其

例ヲ揭ゲバ

讀みぬ。らん

讀みぬ。らめ

讀みつ。らん

讀みつ。らめ

讀みぬ。ら去

讀みぬめり

讀みつ。ら去

讀みつ。めり

問　現在。過去。未來ノ三時ヲ為スニハ各其接辭

ヲ附ケザレバ為ス能ハザルカ

答　三時ヲ為スニハ現在辭。過去辭。未來辭。等ノ接

辞ヲ附ケズシテモ其活辞ノ転変ノ格ニ因テ為スコトアリ然レドモ転変ノ格ノ時ハ截断格ノ外ニハ多クハ全カラザルナリ例ヘバ讀ムト云フ四段活辞ニテ云ハバ左ノ如シ

問　現在時　讀む　截断格
過去時　讀め　已然格
未来時　讀ま　将然格

我ガ平生ノ遣辞ニ於テ此等ノ時ヲ違フルハ如何ナル種々ノ間違ヲ引キ起スナリヤ

答　然リ然ルユエニ

問　此時ヲ違フトハ如何ニ違フルヲ云フカ

答　時ヲ違フトハ例ヘバ未来ニ云フベキヲ現在或ハ過去等ニ言ヒ做ス類ナリ

問　未来ニ云フベキヲ現在ニ言ヒ做スト云フハ如何ナル例アリヤ

答　未来ニ云フベキヲ現在ニ言ヒ做ストハ例ヘバ此書ハ明日讀ント云フベキヲ（此書は明日讀む）ト云フガ如シ明日トハ未ダ来ラザル時ナリ讀ムトハ今眼前ニ讀ムナリ未ダ来ラザル時ノ作業ヲ今眼前ニ為ス如ク言ヒナスキハ未ダ習ハザルモ今習フニナリ未ダ學バザルモ今學ブニナリ未ダ受ケザル教モ今受クル教ニナリ未ダ與ヘザル物モ今與フルナリ

問　未来ニ云フベキヲ過去ニ言ヒ做ストハ例ハ如何ナル例アリヤ

答　未来ニ云フベキヲ過去ニ言ヒ做ストハ例ヘバ此習字本ハ来月習ント云フベキヲ（此習字本は来月習へり）ト云フガ如シ来月トハ未ダ来ラザル月ナリ習ヘリトハ疾ク已ニ習ヒ了ナリ未ダ来ラザル月ノ作業

ノ已ニ為シテ過シ如ク言ヒ倣スキハ未ダ
飲ザル酒ニ已ニ酔リト云ヒ未ダ食ザル食
ニ已ニ飽ケリト云フガ如シ此例ヲ以テ推
スキハ未ダ請取ラザル金圓モ已ニ請取リ
シ如クナルナリ實ニ怖ルベキニアラズヤ

問　我々ガ斯クノ如ク時ヲ誤ルハ口語ノミニ
在ルカ

答　口語ニモアリ又筆語ニモアリ

問　我々ガ平生ノ筆語ニ於テ未来ニ書クベキ
ヲ過去ニ書キ誤ルト者ハ如何ナル例アリヤ

答　我々ガ平生ノ筆語ニ於テ未来ニ書クベキ
ヲ過去ニ書キ誤ル者ハ大抵左ノ如キ類ナ
リ

御約束の習字本は明日請取り申候
御約束の使者は後刻此より差出候
斯ノ如ク書クハ我々ガ平生ノ習慣ナレ氏

問　未ダ請取ラザル物未ダ差出サヾル者ヲ此記法ニ因ルトキハ已ニ請取リ又差出シ、譯ニナルナリ

答　斯ノ如キ文章ニテモ明日或ハ後刻ノ文字上ニアルトキハ未ダ其事ヲ為サヾルニナルベシ然ルヲ已ニ為シタル譯ニナルト云フハ如何ナル理由アリヤ假令上ニ明日後刻等ノ文字アリトモ決シテ

問　賴ミト為スト雖ハザルナリ如何トナレバ水ヨリ記法ハ請取ルベキ約束ト請取シ證書トニ兼渉シタル者ナレバ明日ト後刻トハ未ダ来ラザル時ナレドモ此書文ヲ遣シ後日ヲ經テ之ヲ言フトキハ書文ヲ遣シ、明日或ハ後刻ニ於テ已ニ約束ノ通リ其事ハ履ミ行ヘル者ト見ルヿヲ得ベシ然ルトキハ斯ノ如キ時ノ記法ハ如何ニ為ス

ベキカ

答　斯ノ如キ時ノ記法ハ即チ時刻ニ應ジテ明瞭ニ書クナリ

問　時刻ニ應ジテ明瞭ニ書クトハ如何ニ為スカ

答　時刻ニ應ズトハ例ヘバ上文現在ナレバ下文モ現在ニ書キ上文過去ナレバ下文モ過去ニ書キ上文未来ナレバ下文モ未来ニ書クヲ云フ

問　然ルキハ前文ノ如キハ如何ニ書クカ

答　前文ノ如キハ上文ノ明日或ハ後刻等ノ文字未来ナレバ下文ノ請取ル差出スト云フ如キモ未来ニ書クナリ

問　前文ヲ未来ニ書ケル例ヲ示セ

答　前文ヲ未来ニ書ケルハ左ノ如シ

御約束の習字本は明日請取り可申候

御約束の使者は後刻此より可差出候

問　前ノ如キ文ニ於テ若シ上文過去ナルトキハ

答　前文ニ於テ若シ上ニ昨日先刻等ノ過去ノ文字アルトキハ下ニモ亦過去ノ文字ヲ用ヒテ之ニ應ズ則チ左ノ如シ

御約束の習字本は昨日請取り申候

御約束の使者は先刻此より差出候

問　前ノ如キ文ニ於テ若シ上文現在ナルトキハ

答　前文ニ於テ若シ上ニ今或ハ只今等ノ現在ノ文字アルトキハ下ニモ亦現在ノ文字ノ用ヒテ之ニ應ズ則チ左ノ如シ

御約束の習字本は唯今請取り申也

御約束の使者は此より今差出申也

問　此三時ノ外尚ホ必用ノ記法アリヤ

答　尚ホ種々ノ必用ナル記法アリ

問　種々ノ必用ナル記法ヲ教ヘヨ

答　種々ノ必用ナル記法ハ答者ニ於テモ固ヨリ深ク之ヲ示サンコトヲ望メド紙數限リアリテ亦如何トモ為スヿ能ハズ冀クバ次編ノ緒テ其要法ヲ領ゼヨ

國學院藏書

日本文法問答

四編目次

第六回　文章論ノ上

文章論ノ要旨

文章ヲ綴ル順序

孟尓乎波ノ調

孟尓乎波ノ係辞

係辞ノ部分

八個ノ係辞ヲ結ベル例
係辞ノ變化
體言止ノ例
言ヒ係ノ結ビ辞
三段ノ係辞ヲ種々ニ結ベル例
豆尓乎波ヲ誤レル文
右。き。き。ノ辨
係辞ノ相重ナルキノ結辞
係辞ノ重キニ從テ結ベル例
豆尓乎波ヲ誤ルニ似テ誤ラザル者

日本文法問答 四編

豊後 物集高見 著

第六回 文章論ノ上

問 文章ト云フハ如何

答 文章トハ三品種ノ辞々ヲ彼此絣合レテ一連ニ綴属セル者ヲ云フ

問 文章ノ緊要タル所ハ何ニ在ルカ

答 文章ノ緊要ト爲ス所ハ我々ガ心中ニ見存ル

スル凡百ノ思念ヲ十分ニ書キ出シテ他人ノ心中ニ親切ニ與フルニ在リ

問　三品種ノ辞々ヲ綴合シテ文章ト爲ス順序ハ如何

答　三品辞ヲ綴合シテ文章ト爲ス順序ハ先ツ辞々ヲ綴テ句ヲ爲リ後ニ句々ヲ積テ章ヲ爲ル是文章綴属ノ定法ナリ然レ𪜈日本ノ文法ニ於テハ章句ニ先ダチ豆尓乎波ヲ調フル法ヲ知ラザルハ句ハザル𪜈可ラズ若シ豆尓乎波調カ

問　豆尓乎波ヲ調フトハ如何ニ爲ス者ヲ云フ

答　豆尓乎波ヲ調フトハ上ニぞ・ト云ヘバ下ハるト云ヒ上ニこそト云ヘバ下ニれ・ト云フ類ヲ云フ

問　然ル時ハ上ノ辞ニ因テ下ノ結ビ辞ノ變ル

答　コアリヤ

然リ故ニ上ニ見ル、辞ニ因テ種々ノ結辞アリ而メ此結辞ト爲ス時ハ二編ニ於テ論ジタル用言ノ有ッ呼ノ連體。已然。ノ格ハ共ニ截斷ノ格ニ變リ復タ連體。已然。ノ用ヲ爲サヾルナリ

問　上ニ見ル、辞ハ係辞ト名ヅク

結ビニ用フル辞ハ何ト名クルカ

答　結ビニ用フル辞ハ結辞ト名ヅク

問　係辞ト爲ル辞ハ幾箇アリヤ

答　係辞ト爲ル辞ハ七個アリ而メ此七個ノ係辞ハ

問　此七個ノ係辞ハ何々ト云フカ

答　七個ノ係辞ハ。。。ものぞや何こそト云フ

問　此七個ノ係辞ハ本ト何種ノ辞ヨリ出ヅル
カ

答　七個ノ係辞ノ出所ハ左ノ如シ

は　二編ニ載タル指示辞ノぱナリ

も　二編ニ載タル両辞ノもナリ

の　二編ニ載タル指示辞ノのナリ

ぞ　二編ニ載タル指示辞ノぞナリ

や　二編ニ載タル疑辞ノやナリ

何　二編ニ載タル疑辞ノなにナリ

こそ　二編ニ載タル指示辞ノこそナリ

問　此七個ノ係辞ニ部分アリヤ

答　部分アリ

問　七個ノ係辞ノ部分ハ如何

答　七個ノ係辞ノ部分ハ係辞ノ軽重ニ因テ之ヲ左ノ三段ニ分ツ

一段ノ係辞　は　も

二段ノ係辞
三段ノ係辞

「一段ノ係辞ハ輕ケレバ之ヲ結ブ辞ハ皆截斷ヲ用ヒ二段ノ係辞ハ重ケレバ之ヲ結ブ辞ハ皆連體ヲ用ヒ三段ノ係辞ハ愈重ケレバ之ヲ結ブ辞ハ皆已然ヲ用ヒ而メ七個ノ係辞ナキ者ヲ呼ブ徒ト云フモ亦假ニ一段ノ係辞ト爲ス」

のぞや何こそ

問　此三段ノ係辞ヲ結ベル例ハ如何

答　三段ノ係辞ヲ結ベル例ハ左ノ如シ

第一段　此結ビハ截斷格ノ辞ニテ此ハ下二段活辞ナリ

徒は　も

童子犬を伴る。

第二段　此結ビハ連體格ノ辞ニテ此ハ下二段活辞ナリ

の

童子は犬を伴る。

童子も犬を伴る。

童子が犬を伴るる

ぞ　や　何

第三段（ダイサンダン）　此結ビハ已然格ノ辞ニテ此ニ挙タルハ下ニ段活辞ナリ

問　此二段（コノニダン）ノ係辞（カリコトバ）ノ・ト・ノ・ヲ・ガ・ニ・ト・ノ・ヲ・ガ・ニ童子（ドウジ）ノ・ヲ・ガ・ニ

童子ぞ犬（イヌ）を伴（ツ）るる

童子や犬を伴るる

童子いつ犬を伴るる

童子こそ犬を伴るれ

こそ

問　此二段（コノニダン）ノ係辞（カリコトバ）ノ・ト・ノ・ヲ・ガ・ニ・ト・ノ・ヲ・ガ・ニ童子（ドウジ）ノ・ヲ・ガ・ニ

答　何ナル由縁（ユエン）カ二段（ニダン）ノ係辞（カリコトバ）中ノ・ト・ノ・ヲ・ガ・ニ・ト・ノ・ヲ・ガ・ニ易（カ）ヘシハ其辞（ソノコトバ）ニ易（カ）ヘテモ其用意（ソノココロ）ナリ

問　ノ・ヲ・ガ・ニ易（カ）ヘテモ其結辞（ムスビコトバ）ニ變（カハ）リナキヤ

答　ノ・ヲ・ガ・ニ易（カ）ヘテモ結辞（ムスビコトバ）ニ變（カハ）リナキハ固（モト）ヨリ・ガ・ハ・ノ・ト云（イ）フニ同（オナ）ジキ辞義（コトバノコロ）ナルヲ以（モッ）テナリ例（タト）ヘバ前（マヘ）ノ（童子（ドウジ）ガ・犬（イヌ）ヲ伴（ツ）ルる）ト

イ云ヘルハ（童子の犬を伴る）ト云フニ同ジ尚ホ其例ヲ擧ゲハ

童子が書を読む。　童子の書を読む。

童子が茶を煮る。　童子の茶を煮る。

童子が鞠を蹴る。　童子の鞠を蹴る。

童子が犬を懼る。　童子の犬を懼る。

童子が馬を馳せる。　童子の馬を馳せる。

斯ノ如ク「が」ト云フモ其意ニ変ルナレ然レ氏此ニ擧タル例ハ書、茶、鞠、犬、馬等ノ辞ヲ間ニ分メルヲ以テ尚ホ見難カルベシ故ニ更ニ間ニ辞ヲ分マザル例ヲ示スベシ

花が開く。　花の開く。

鳥が鳴く。　鳥の鳴く。

菓が落つる。　菓の落つる。

齢が老ゆる。　齢の老ゆる。

空が晴るる。
水が流るる。

問　いつヲ何ニ曷ヘテモ亦其結辞ニ變リ無キヤ

答　いつヲ何ニ曷ヘテモ其結辞ニ變リ無キハのヲがニ曷ヘレニ同ジ然レ𪜈何ト云フハ本ト疑辞ノ総称ナレバいつノミヲ以テ何ニ曷フベシト云フニハ非ズ大凡疑辞ノ

空の晴るる。
水の流るる。

いつ　いつれ　いく　たれ
たが
など
いか

ノ類ハ総テ何ノ部類ノ辞ナレバ何ヲ結ブ辞ヲ以テ結ブ者トス尚ホ例ヲ擧ゲバ

童子なにを待つ　童子たれを待つ
童子なにに戯るる　童子いかに戯るる

斯ノ如クなにト云フモたれいかト云フモ其結辞ニ變ルコトナレ然レ𪜈此ニ擧タル例

ハをにト云ヲ接辞ヲ間ニ介メルヲ以テ尚ホ見難キコアラン故ニ更ニ間ニ接辞ヲ置ザル例ヲ示スベシ

問

なに思ふ
なに見る
なに爲も
なにならん

答

此三段ノ係辞ヲ結ブ簡易ナル法アリ前ニ説キタル如ク一段係辞ノはもハ截断ノ辞ニテ結ビ二段係辞ノのぞや何ハ連體ノ辞ニテ結ビ三段係辞ニそゐ已然ノ辞ニテ結ビ之ニ反スル中ハ總テ且尓乎波ヲ誤ル者ナリト知ルベシ

問

三段ノ結ト為ル辞ハ作用言形状言ノミカ

法アリヤ

答

此三段ノ係辞ヲ結ブ簡易ナル法アリ前ニ説キタル如ク一段係辞ノはもハ截断ノ辞ニテ結ビ二段係辞ノのぞや何ハ連體ノ辞ニテ結ビ三段係辞ニそゐ已然ノ辞ニテ結ビ之ニ反スル中ハ總テ且尓乎波ヲ誤ル者ナリト知ルベシ

問

三段ノ結ト為ル辞ハ作用言形状言ノミカ

答　作用言。形状言。ノ外ニ接辞ヲ以テ結フアリ

問　體言ヲ以テモ亦結ブフアリヤ

答　否。體言ハ結ビニ用ヒズ歌ナドニ或ハ體言ヲ下句ニ置クコアリテ是ヲ世ニ體言止ト呼ブ然レドモ其結ビニ用ヒニハ非ザルナリ

問　體言止ハ如何ナル例アリヤ

答　體言ヲ下句ニ置テ止ムル例ハ人の心は其れぞ世の常

夢に見けん我ぞ其の人

カ

問　斯ノ如キモ常又ハ人ト云フ體言ヲ以テニ段係辞ノぞノ結ビニ用ヒタルニハ非ザル

答　是等ハ二段係辞ノぞノ結ビニ用ヒシニハ非ズシテ結ビ辞ヲ省キタルナリ故ニ左ノ如ク常又ハ人ト云フ文字ノ下ニなるト云フ辞ヲ添フル片ハ意味明晰ニ知ルヽナリ

問　人の心は其れぞ・世の常なる
　　夢に見けん我ぞ・其の人なる
　　斯ノ如ク體言ヲ下ニ置テ止メタル者ハ總テ別ニ結ブベキ辭ヲ省キシナリ然レ𪜈亦或ハ言ヒ係ケニテ結ベル者アリ是等ハ省キシニハ非ザルナリ

答　言ヒ係ケニテ結ブト云フハ如何

問　言ヒ係ケテ結ブトハ其係辭ノ結ビヲ體ノ中ノ辭ニ言ヒ係ケテ持タシムルヲ云フ

答　例ヘバ（今ぞ・越路に歸る。山）（昔をのみぞ・忍ぶ草）ノ如ク歸る山忍ぶ草ノ歸る忍ぶヲ借テ直ニぞ・ノ結ビニ用ヒタルナリ尚ホ云ハバ

問　今日はよそにぞ・菊の上の露
　　人に今宵ぞ・逢ふ阪の關
　　斯ノ如キモ菊ヲ聞くニ言ヒ係ケテぞ・ノ結

ビニ假リ逢フ阪ノ逢フヲ人ニ逢フノ逢フ

ニ借リテゾノ結ビニ用ヒレナリ

問　三段ノ係辞ヲ作用言。形状言。接辞ヲ以テ結ブ時ハゾ・ト云ヘバ

ホト結ブノミナラズ尚ホ多クノ結ビ辞ア

リヤ

答　然リ三段ノ係辞ニ依リテ種々ノ結ビ辞ア

リ。こそ・は唯其一例ニ祢セルノミナリ

問　三段ノ係辞ヲ結ブベキ種々ノ結辞ノ例ヲ

示セ

答　三段ノ係辞ヲ種々ニ結ブニ童子ノ學問上

ノ一事ヲ以テ左ニ其例ヲ示スベシ

一段係辞徒ヲ結ベル例

左ノ徒・・ハ・ノ結ビニ用タル辞ハ皆截

斷ノ格ナレバ深ク意ヲ注メテ其辞ノ

例ヲ見ルベシ

童子の學問(ガクモン)は。善(ヨ)き。
童子の學問(ガクモン)は。善(ヨ)き。
童子の學問(ガクモン)も。善(ヨ)き。
童子の學問(ガクモン)は。賴(タノモ)き。
童子の學問(ガクモン)も。賴(タノモ)き。
童子の學問(ガクモン)は。進(ス、)みき。
童子の學問(ガクモン)も。進(ス、)みき。

童子の學問(ガクモン)も。進(ス、)みき。
童子の學問(ガクモン)は。進(ス、)みにき。
童子の學問(ガクモン)は。進(ス、)みにき。
童子の學問(ガクモン)も。進(ス、)みにき。
童子の學問(ガクモン)は。進(ス、)みてき。
童子の學問(ガクモン)も。進(ス、)みてき。
童子の學問(ガクモン)。進(ス、)まぢ。

童子の學問は。進まざ。
童子の學問も。進まざ。
童子の學問は。進まざ。
童子の學問は。進まざ。
童子の學問も。進まざ。
童子の學問は。進まざ。
童子の學問も。進まざ。
童子の學問は。進むなり
童子の學問も。進むなり

童子の學問は。進みたり
童子の學問も。進みたり
童子の學問も。進みたり
童子の學問は。進みけり
童子の學問は。進みけり
童子の學問も。進みけり
童子の學問は。進めり 進むめりト結ブめりモ同ジ
童子の學問は。進めり

童子の學問も。
童子の學問。
童子の學問は。
童子の學問も。
童子の學問は。
童子の學問も。
童子の學問は。
童子の學問も。

進めり
進みぬ。
進みぬ。
進みぬ。
進みつ。
進みつ。
進みつ。
續く。

童子の學問も。
童子の學問。
童子の學問は。
童子の學問も。
童子の學問は。
童子の學問も。
童子の學問は。
童子の學問も。

續く。
續く。
增せ。
增せ。
滿つ。
滿つ。
滿つ。

童子の學問（ドウジのガクモン）添ふ。
童子の學問は（ドウジのガクモンは）添ふ。
童子の學問も（ドウジのガクモンも）添ふ。
童子の學問（ドウジのガクモン）進む。
童子の學問は（ドウジのガクモンは）進む。
童子の學問も（ドウジのガクモンも）進む。
童子の學問（ドウジのガクモン）成る。
童子の學問は（ドウジのガクモンは）成る。
童子の學問も（ドウジのガクモンも）成る。
童子の學問（ドウジのガクモン）進まん。
童子の學問は（ドウジのガクモンは）進まん。
童子の學問も（ドウジのガクモンも）進まん。
童子の學問（ドウジのガクモン）進むらん
童子の學問は（ドウジのガクモンは）進むらん
童子の學問も（ドウジのガクモンも）進むらん
此進むらんハ進みけん進みなんト

云フモ亦同ジ

二段係辞（ニダンノカヽリコトバ）のぞ何ヲ結（ムス）ベル例（レイ）

左ノ四辞（シジ）のぞ何ノ結（ムス）ビニ用（モチ）ヒタル辞（コトバ）ハ

皆連體（ミナレンタイ）ノ格（カク）ナレバ深（フカ）ク意（コヽロ）ヲ注（トヾ）メテ其（ソノ）

辞（コトバ）ノ例（レイ）ヲ見（ミ）ルベシ

童子（ドウジ）の學問（ガクモン）・が・ト云フモ同ジ善（ヨ）き。

童子（ドウジ）の學問（ガクモン）・が・ト云フモ同ジ善（ヨ）き。

童子（ドウジ）の學問（ガクモン）・何・ト云フモ同ジ善（ヨ）き。

童子（ドウジ）の學問（ガクモン）・が・ト云フモ同ジ善（ヨ）き。

童子（ドウジ）の學問（ガクモン）・何・ト云フモ同ジ善（ヨ）き。

童子（ドウジ）の學問（ガクモン）・が・ト云フモ同ジ賴（タノモ）もき

童子（ドウジ）の學問（ガクモン）・何・ト云フモ同ジ賴（タノモ）もき

童子（ドウジ）の學問（ガクモン）・が・ト云フモ同ジ進（ス）みき。

童子（ドウジ）の學問（ガクモン）・何・ト云フモ同ジ進（ス）みき。

童子（ドウジ）の學問（ガクモン）・が・ト云フモ同ジ進（ス）みに志

童子（ドウジ）の學問（ガクモン）・何・ト云フモ同ジ進（ス）みに志

童子の學問や・何ト云フモ同ジ　進みに志

童子の學問の・が・ト云フモ同ジ　進みて志

童子の學問ぞ・　進みて志

童子の學問や・何ト云フモ同ジ　進みて志

童子の學問の・が・ト云フモ同ジ　進まぬ。

童子の學問ぞ・　進まぬ。

童子の學問や・何ト云フモ同ジ　進まぬ。

童子の學問の・が・ト云フモ同ジ　進むなる

童子の學問ぞ・　進むなる

童子の學問や・何ト云フモ同ジ　進むなる

童子の學問の・が・ト云フモ同ジ　進みたる

童子の學問ぞ・　進みたる

童子の學問や・何ト云フモ同ジ　進みたる

童子の學問の・が・ト云フモ同ジ　進みける

童子の學問ぞ・　進みける

童子の學問や・何ト云フモ同ジ　進みける

童子の學問(ガクモン)・が・ト云フモ同ジ

童子の學問(ガクモン)や・何・ト云フモ同ジ

童子の學問(ガクモン)ぞ・

進(ス)ム

進(ス)メル

進(ス)メル 進(スス)むめるト結ブめるモ同ジ

童子の學問(ガクモン)や・何・ト云フモ同ジ

進(ス)メル

童子の學問(ガクモン)の・が・ト云フモ同ジ

進(ス)ミヌル

童子の學問(ガクモン)や・何・ト云フモ同ジ

進(ス)ミヌル

童子の學問(ガクモン)の・が・ト云フモ同ジ

進(ス)ミヌル

童子の學問(ガクモン)ぞ・

進(ス)ミツル

童子の學問(ガクモン)や・何・ト云フモ同ジ

進(ス)ミツル

童子の學問(ガクモン)の・が・ト云フモ同ジ

進(ス)ミツル

童子の學問(ガクモン)ぞ・

續(ツヅ)ク

童子の學問(ガクモン)や・何・ト云フモ同ジ

續(ツヅ)ク

童子の學問(ガクモン)の・が・ト云フモ同ジ

增(マ)セ

童子の學問(ガクモン)や・何・ト云フモ同ジ

增(マ)セ

童子の學問(ガクモン)の・が・ト云フモ同ジ

滿(ミ)ツ

童子の學問ぞ。滿つ。
童子の學問や。何ト云フモ同ジ滿つ。
童子の學問のガト云フモ同ジ添ふ。
童子の學問ぞ。添ふ。
童子の學問や。何ト云フモ同ジ添ふ。
童子の學問のガト云フモ同ジ進む。
童子の學問ぞ。進む。
童子の學問や。何ト云フモ同ジ進む。

童子の學問のガト云フモ同ジ成る。
童子の學問ぞ。成る。
童子の學問や。何ト云フモ同ジ成る。
童子の學問のガト云フモ同ジ進まん。
童子の學問ぞ。進まん。
童子の學問や。何ト云フモ同ジ進まん。
童子の學問のガト云フモ同ジ進むらん
童子の學問ぞ。進むらん

童子の學問や（何ト云フモ同ジ）進むらん

此進むらんい進みけん進みなんト云フモ亦同ジ

三段係辞こそヲ結べル例

左ノこそノ結ビニ用ヒタル辞ハ皆已然ノ格ナレバ深ク意ヲ注メテ其辞ノ例ヲ見ルベシ

童子の學問こそ善けれ

童子の學問こそ頼もけれ

童子の學問こそ進みもか

童子の學問こそ進みにもか

童子の學問こそ進みてもか

童子の學問こそ進まね。

童子の學問こそ進むなれ

童子の學問こそ進みたれ

童子の學問こそ進みけれ

童子の學問こそ　進めれ　進むめれトモ同ジ結ブ
童子の學問こそ　進みぬれ
童子の學問とそ　進みつれ
童子の學問こそ　續け。
童子の學問こそ　増せ。
童子の學問こそ　満て。
童子の學問こそ　添へ。
童子の學問こそ　進め。

童子の學問こそ　成れ
童子の學問こそ　進まめ。
童子の學問こそ　進むらめ

此進むらめい進みけめ進みなめト云フモ亦同ジ

問

此三段係辞ヲ結ベル例ニ擧タル（童子の學問）ト云フハ只其一例ナレバ如何ナル辞ニテモ其例ニ準ヘテ結ブヤハ誤ナキカ

答　然リ（童子の學問）ト云フハ只其例ニ取レマデナレバ是ヲ（我が運動）ニ易ヘ或ハ（彼が習字）等ニ易ヘテ云フモ同ジ例ヘバ

我が運動は善き。

我が習字も善き。

ノ如シ而メ此豆尓乎波ノ調ヘヲ知ルハ先ヅ其誤レル者ヲ見出シ或ハ其誤ルニ似テ誤ラザル者ヲ見分ルヲ學ブヲ以テ捷徑トスベシ

問　誤ル者ヲ見出シ或ハ誤ルニ似テ誤ラザル者ヲ見分ルハ如何ナル法ニ爲シテ學ブベキカ

答　誤ル者ヲ見出ス事ヲ學ブハ左ニ出ス文章ノ如キ豆尓乎波ヲ見テ前ニ擧タル例ニ照シテ其調ヘルヤヲ否ヤヲ知ルナリ

問　彼の學校は綺麗に建ち𣑥

答　彼の人は曽て教師なり𣑥

問　此二章ノ文ニ見タルは一段ノ係辞ナラズヤ

答　然リ一段係辞ナリ

問　一段係辞ノは（童子の學問は進みき）ノ例ニ依リテ彼の學校は綺麗に建ち𣑥

答　彼の人は曽て教師なりき。

ノ如ク言ハザル可ラザルガ如シ如何

然リ一段係辞ナレバ

ルナリ若シ結辞ヲ𣑥ト云ハバ係辞ヲ二段ニ改メテ

彼の學校ぞ綺麗に建ち𣑥

彼の人ぞ曽て教師なり𣑥

ノ如シ而メ此きト結ビ或ハ𣑥ト結ブニ甚

ダ紛ヒ易キ者アリ左ノ文章ヲ熟視セヨ

問　童子は友達の善きぞ善き
　　女子は女子に習ふぞ善き

答　此二章ノ文ニテハ互尓乎波ノ違フ無キガ如ク如何ニ否々。然ラズ是レ則チ互尓乎波ノ違ヘル者ニテ右。トきヲ紛ヘ易キ呼ナリ故ニ先ヅ左ニ此互尓乎波ヲ講ヘテ弁スベシ

問　然ルキハ此二章ノき。ハ前ニ挙タル進みきノき。トハ異ナルカ

答　進みきノき。トハ異ナリ前ニ挙タル例ヲ見ヨぞ・ハ二段係辞ニテ善きノき。ハ其結ビナリ抑モ此善きノき。ト進みきノき。ハ連體ト截断ノ差アリ善きハ形狀言ニテ第四ノ轉

ゞナレバ連體ナリ二段係辭ヲ結ブハ連體ノ辭ヲ用フルナリ進

みきノき。ハ過去辭ニテ過去辭ニ編ニ在リ

ナリ斷ノ辭ヲ用フルナリ截斷

紛ヒ易キヲ見分ルニハ先ヅ其形狀言カ過去辭カヲ思ヒ見ルベシ而メ若シ志ノ形狀言ナラバ截斷形狀言ノ格ハト知リ過去辭

言ナラバ截斷ノ切レタル形ヲ示スベシ過去辭ノ志。

ナラバ連體ト知レ過去辭ノ格ハ初學ノ日本文典ニ詳ナリき。ノ形狀言ナラバ連體ト知リ過去辭ナラバ截斷ト知ルベシ今形狀言ノ志。き。ト過去辭ノ志。き。トヲ倂セ擧ゲテ連體ノ體言ニ連ナリ

截斷ノ切レタル形ヲ示スベシ

高志。

遠志。

美志。

睦志。

馨リ志。花

零リ志。雪

驕リ志。人

讀み志。書

形狀言ノき。過去辭ノき。

高き山

遠き國

美き花

睦き友

斯ノ如ク一個ハ志ト云ヒテ切レ一個ハ志ト云ヒテ續キ一個ハきト云ヒテ續キ一個ハきト云ヒテ切ルヽ者ハきヽ同ジ辭ナレ共其屬ク所ノ辭ノ種類ニ因テ斯ク變ルモノナレバ能ク其心ニ味ヘ知ルベシ

問

（女子は友達の善きぞ善き）トアル善きヲ善志ニ易フルトきハ或ハもニ易フベキカ

答

然リ善志ト結ブ時ハ二段ノぞヲ一段係辭ノもニ置キ易フベシ則チ左ノ如シ

問

童子は友達の善きは善き。
女子は女子に習ふは善き。

前文ノ（童子は友達の善き。女子は女子に習ふ。）ふぞノぞ。ハ善きニテ結ブ可シト雖モ其（童子は）ノは。ハ童子の學問は）ノは。ニ同ジケレバ其は。ノ結ビハ何ヲ以テ結ベルカ此二章ノ文中は。ノ結ビハ見エザル如シ然ルヰハ此文モ亦誤レルニハ非ザルカ

答

否。誤レルニハ非ズ前文ノ（童子は）（女子は）ノは。ハ問ヒノ如ク前ノ童子の學問はノは。ニ同ジ而メ又二章ノ文中ニハは。ノ結ビハ無キナリ然レ氏本ト係辞ヲ三段ニ分テル者ハ其辞ニ輕重ノ差別アルニ依レリ故ニ係辞相重ナルヰハ重キ方ニ從テ結

ブヲ法トス彼ノ文ノ如キモ（童子は）（女子は）ノはハ一段係辞ニテ軽ク善きぞノぞハ二段係辞ニテ重ケレバ其重キ

問　ふぞノぞハ二段係辞ニテ重ケレバ其重キ

答　ニ就テ結ベルナリ

問　三段ノ係辞相重ナル片ハ総テ其重キ方ニ就テ結ブカ

答　然リ然レ𪜈三段ノ中二段三段ハ最モ重ケレバ其辞ノ相重ナル片ハ各別ニ結ハザル可ラズ例ヘバ二段係辞ノぞトや重ナル片ハぞノ結ビヲ用ヒやノ結ビヲ用フ又二段係辞ノやト、三段係辞ノこそト重ナル片ハやノ結ビヲ用ヒこそハこそノ結ビヲ用フル如シ

問　三段ノ係辞ノ重ナレルヲ各別ニ結ベル例ヲ示セ

答　三段ノ係辞ノ重ナル片重キ方ニ就テ結ブ

例ト各別ニ結ブ例トヲ擧ゲバ左ノ如シ

重キ方ニ従テ結ブ例

雪とのみこそ花は散らめ

一段係辞ナレ氏
輕ケレバ結バズ

聲聞くときぞ秋は悲しき

一段係辞ナレ氏
輕ケレバ結バズ

各別ニ結ブ例

命をぞいかならんとは思ひ來し

共ニ重ケレバ各別ニ結ベリ

花をこそ人や折るとて袂めか

ヤハニ段ノ係辞ニテ共ニ重ケレバ各別ニ結ベリ

ノ係辞ニテ共ニ重ケレバ各

別ニ結ベリ

此ニ擧タル結ビト前ノ三段ノ結ビトヲ照シテ其例ヲ熟知スベシ

問

豆尓乎波ヲ誤ルニ似テ誤テザル者ト云フハ如何ナル例ヲ云フカ

答　豆尓乎波ヲ誤ルニ似テ誤ラザル者トハ例ヘバ一段係辞ハぬ。ぬつ。ぬる。ぬるつる等ヲ用ヒ係ハぬるなる等ニテ結ブベキニぬ。なり等ヲ用フル類ぬ。なり係辞ノ結ビ辞ハ一段ヲ云フ然レ氏此レハ是レ一種ノ變格ニテ初學ノ人ノ容易ク學ビ得ベキニ非ズ然レ氏亦其變格アルヲ知ルニ非ザレバ結人ノ正シキ歌或ハ文ヲ見テ直ニ誤レリト錯視センヲ恐ルヽヲ以テ今左ニ其一二ノ例ヲ掲グベシ

ぬ。つ。ニテ結ブベキヲぬるつるニテ結ベル例。

秋風を松の陰にて今日ぱ暮ぬる
鶯のまつに音せで春ぱ暮れぬる

此二個ハ一段係辞ノぱ。ト心ヲ二段係辞ヲ結ブベキぬるヲ以テ結ベルナリ

はづか志の杜（モリ）の言葉（コトノハ）散（ナラ）ば果（ハテ）つる
山風（ヤマオロシ）に紅葉（モミヂ）を海の物（モノ）と為（ナ）ある
此ニ二個ハ一段係辞ノ徒ヲ二段ヘル係辞ヲ結ブベキつるヲ以テ結ナリ

ぬるなるニテ結（ムス）ブベキヲぬ。なりニテ結ベル例（レイ）

いく夜寝覚（ネザ）めぬ。須磨の関守（セキモリ）
みやとの錦（ニシキ）いくへかもみぬ。
此ニ二個ハ二段係辞ノ何ヲ一段ナリ係辞ヲ結ブベキぬヲ以テ結ベル

白雲（シラクモ）を君（キミ）去も外（ヨソ）に見るは何（ナニ）なり
山彦（ヤマヒコ）の応答（コタ）へに懲（コリ）ぬ心何（ナニ）なり
此ニ二個ハ二段係辞ノ何ヲ一段ナリ係辞ヲ結ブベキなりヲ以テ結ベル

日本文法（ニホンブンパフ）問答（モンダフ）四編（ヘン）終

帝國圖書館藏書

日本文法問答

五編目次

第七回　文章論ノ中
辞々ヲ連合スル例
體言ノ連合
體言ト體言トノ連合
用言ト用言トノ連合
體言ト用言トノ連合
用言ト體言トノ連合

五編　日本文法問答　一　二十一

四編　日本文法問答　三十二

體言ト接辭トノ連合
用言ト接辭トノ連合
接辭ト接辭トノ連合
體言ト體言トノ間ニ接辭ヲ置タル
ル連合
用言ト用言トノ間ニ接辭ヲ置タル
ル連合
體言ト用言トノ間ニ接辭ヲ置タル
ル連合

第八問

文章論ノ下

連合
用言ト體言トノ間ニ接辭ヲ置タル
ル連合
體言ト用言トノ間ニ接辭
トヲ置タル連合
用言ト體言トノ間ニ體言ト接辭
トヲ置タル連合

章句ヲ解剖シテ辞々ノ綴合ヲ見ル例
句々ヲ綴合スル法
二句ヲ綴合スル例
三句ヲ綴合スル例
句尾ノ合連用辞ノ変化
句尾ニ附ル連用辞
句尾ニ附ル連體辞
四句ヲ綴合スル例
五句ヲ綴合スル例
句ヲ積ム順序
文主格并ニ目的格
語脈
語脈ヲ誤レル例
句ノ綴合ニ生ズル変勾

日本文法問答五編

豊後　物集高見　著

第七回　文章論ノ中

問　弖爾乎波ノ調ヘハ前編ニ於テ已ニ之ヲ聞キ、今此編ニ於テハ辞々ヲ緻リ合セテ文章ヲ為ス法ヲ聞クベシ

答　辞々ヲ緻リ合セテ文章ヲ為スハ先ヅ句ヲ作ルヲ學ビ後ニ其句ヲ積ミテ章ヲ為ルニ

習ヒ及ブベシ

問　句ヲ作ルト云フハ如何

答　句ヲ作ルト云フハ辞々ヲ合セテ一節ノ語ニ為スヲ云フ例ヘバ梅。ト云フ辞。ト云フ辞花ト云フ辞ヲ綴リ合セテ（梅の花）ト云フ一個ノ語ニ為スヲ云フ此辞々ヲ合セテ一節ノ語ヲ作ルハ猶種々ノ布ヲ綴リ合セテ一具ノ衣ニ縫ヒ成スガ如シ

問　句ヲ作ルニ種々ノ法アリヤ

答　句ヲ作ルニ種々ノ法アリ體言ト體言トヲ連合シテ一句ト為スアリ用言ト用言トヲ連合シテ一句ト為スアリ體言ト用言トヲ連合シテ一句ト為スアリ用言ト體言トヲ連合シテ一句ト為スアリ體言ト接辞トヲ連合シテ一句ト為スアリ用言接辞トヲ連合シテ一句ト為スアリ

問　體言ト體言トヲ連合シテ一句ト為ス法又ハ一句ト為セル例ハ如何

答　體言ト體言トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ櫻ト云フ言ト花ト云フ辞トヲ合セテ（櫻花）ト為シ人ト云フ言ト心ト云フ辞トヲ合セテ（人心）ト為シ河ト云フ言ト遊ト云フ辞トヲ合セテ（河遊）ト為シ書ト云フ言ト棚ト云フ辞トヲ合セテ（書棚）ト為ス如シ而メ此等ハ二物ヲ合セテ一物ニ呼ビ做スヲ以テ又一ニ合體言ト云フ

體言ト體言トヲ連ネテ一句ト為ス例

都人	鄙人	里人	浦人
火桶	火鉢	水瓶	
花時	雨天	寒天	秋風
春日	月光	夕月	
筆架	書挾	水呑	水入

問　筆筒　手拭　酒盃

彼奴　彼男　吾児　吾嬬

問　用言ト用言トヲ連合シテ一句ト為ス法又ビ一句ト為セル例ハ如何

答　用言ト用言トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ讀ト云フ言ト始ト云フ辞トヲ合セテ（讀み始む）ト為シ習ト云フ言ト難ト云フ辞トヲ合セテ（習ひ難し）ト為シ長ト云フ言ト住ト云フ辞トヲ合セテ（長く住む）ト為シ久ト云フ言ト熱ト云フ辞トヲ合セテ（久く熱し）ト事ヲ合セテ一事ニ呼ビ做スヲ以テ又一ツニ合用言ト云フ用言ト用言トヲ連ネテ一句ト為ス例

讀み習ふ　書き習ふ　立ち出づ　飛び散る　住み馴る

問

言ひ難き　聞き惡き　馴れ易き
受け難き　為し易き
早く往く　晩く還る　善く為せ
惡く言フ　樂く思ふ
久く寒き　長く熱き　淺く青き
深く黒き　微く赤き

體言ト用言トヲ連合シテ一句ト為セル例ハ如何

答

體言ト用言トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ
花ト云フ體言ト開ト云フ用言トヲ合セテ（花開ク）ト為シ人ト云フ體言ト行ト云フ用言トヲ合セテ（人行ク）ト為シ夜ト云フ體言ト明ト云フ用言トヲ合セテ（夜明ク）ト為シ天ト云フ體言ト曇ト云フ用言トヲ合セテ（天曇る）ト為シ光ト云フ體言ト映ト云フ用言トヲ合セテ（光映せ）

ト為シ氷ト云フ體言ト融ト云フ用言トヲ合セテ（氷融ク）ト為シ我ト云フ體言ト讀ト云フ用言トヲ合セテ（我讀む）ト為シ汝ト云フ體言ト見ト云フ用言トヲ合セテ（汝見る）ト為シ水ト云フ體言ト清ト云フ用言トヲ合セテ（水清シ）ト為シ珠ト云フ體言ト美ト云フ用言トヲ合セテ（珠美シ）ト為ス如シ而ノ其例ハ左ノ如シ

體言ト用言トヲ連ネテ一句ト為ス例

日出づ	月傾く	風吹く	火燃ゆ
人多シ	荷重シ	露滋シ	日高シ
國遠シ	天晴る	空曇る	夢見る
時過ぐ	年明く	年暮る	世治る
秋深シ	春淺シ	夏熱シ	冬寒シ

日長き　夜短き　時好き
光出づ　戦起る　恨有る　説話を
謡聞く　祭始る　納涼を
馨佳き　艶懐き　慎深き　偽無き
費多き　過少き　助多き
吾行く　吾去る　汝出づ　汝見る
彼進む　彼退く　彼待つ
此正き　其欲き　其善き

問　彼辛き　彼美き　彼卑き
用言ト體言トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ
ビ一句ト為セル例ハ如何

答　用言ト體言トヲ連合シテ一句ト為ス法又
行ト云フ用言ト人ト云フ體言トヲ合セテ
（行く人）ト為シ凋ト云フ用言ト花ト云
フ體言トヲ合セテ（凋む花）ト為シ長ト
云フ用言ト旅ト云フ體言トヲ合セテ（長

き旅）ト為シ貧ト云フ用言ト民ト云ノ體言ト

言トヲ合セテ（貧き民）ト為ス而ノ其例

ハ左ノ如シ

用言ト體言トヲ連ネテ一句ト為ス例

嘶く駒　泣く児　傾く月　洗ふ衣

誘ふ友　浮ぶ舟　楽む親

鈍き刀　悪き男　高き梯　浅き川

遅き馬　寂き宿　珍き菓

歌ふ歌　好む業　進む心　住む世

見る夢　曇る空　映る影

新き年　悲き心　惜き命　白き色

辛き世　遠き昔　近き頃

結ぶ氷　映す光　勝つ争　受る恵

為す誓　強る驕　渡る渡

惜き別　委き話　強き零　楽き猟

尊き祭　深き望　久き恨

行く吾進む吾隨ふ汝羨む汝

語る彼走る彼睡る彼

問　體言ト接辭トヲ連合シテ一句ト為ス法及ビ一句ト為ヒル例ハ如何

答　體言ト接辭トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ童子ト云フ體言トヨト云フ接辭トヲ合セテ（童子よ）ト云フ接辭トヲ合セテ（鳥ぞ）ト為シ光ト云フ體言トヲ合セテ（光なり）ト為シ爭ト云フ體言トかなト云フ接辭トヲ合セテ（爭かな）ト為ス而ノ其例ハ言トなりト云フ接辭トヲ合セテ（光なり）ト為シ爭ト云フ體言トかなト云フ接辭トヲ合セテ（爭かな）ト為ス而ノ其例ハ

左ノ如シ

體言ト接辭トヲ連ネテ一句ト為ス例

児よ	女や	月な	雪なり
蝶よ	花や	鳥かな	虫なり
春よ	秋や	心よ	夢や

問

空かな　影なり　闇かな　幻なり
遊よ　思や　嘆よ　樂や
匂かな　氷なり　習かな　教なり
深よ　長よ　重や　寒や
樂かな　惟なり　貧かな　惜なり
我は　汝かは　其や　此よ
彼かな　彼なり　君よ

用言ト接辞トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ一句ト為セル例ハ如何

答

用言ト接辞トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ進ト云フ用言トなり‖ト云フ用言トけり‖テ（進なり）ト為シ許ト云フ用言トけり‖ト為シ

ト云フ接辞トヲ合セテ（許けり）ト為シ

思ト云フ用言トぎ・ぜト云フ接辞トヲ合セテ

（思ぎ）ト為シ退ト云フ用言トき・ト云フ接辞トヲ合セテ

（退き）ト為シ懲ト云フ

用言（ヨウゲン）

用言トたりト云フ（イ）接辞（セッジ）トヲ合（アハ）セテ（懲（コラシ）た）り）ト為（ナ）レ易（ヤスシ）ト云フ（イ）用言トなりト云フ（イ）接辞（セッジ）ト云フ（イ）

辞（ジ）トヲ合セテ（易（ヤスキ）なり）ト為（ナ）シ願（ネガハシ）ト云フ（イ）用言（ヨウゲン）トぞ・ト云フ（イ）接辞（セッジ）トヲ合セテ（願（ネガハシキ）ぞ）

ト為（ナ）ス如（ゴト）シ

用言（ヨウゲン）ト接辞（セッジ）トヲ連（ツラ）ネテ一句（ヒトツノク）ト為（ナ）ス例（レイ）

吹（フク）よ　開（サク）や　見（ミ）や　聞（キク）ぞ

待（マツ）なり　催（モヨホ）けり　磨（ミガキ）けり

往（ゆ）たり　退（しりぞ）たり　明（あ）かん　暮（くら）ん

散（ち）なん・訪（とぶら）はなん　拂（はら）はけん　撃（うち）けん

働（はたらか）き　勉（つとめ）き　送（おく）つ　迎（むかへ）ぬ

欺（あざむか）ざ　驕（おごり）ぞ　起（おき）ね　閉（とぢ）ばや

讀（よ）よ　教（をしへ）よ　告（つげ）ま志　載（の）らん

重（かさ）ら志　諫（いさめ）べ志　與（あづか）めり　攻（せめ）か

思（おもひ）か　泣（なか）志　絶（たえ）か志

騒（さわが）や　怕（おそろしき）かな　宜（よろしき）ぞ　遅（おそき）なり

問　惡ごと云ヒ狹ごと云ヒ接辭ト接辭ト連合シテ一句ト為スヿアリヤ

答　接辭ト接辭トハ常ニ連合スルヿアレ共一物或ハ一事トナルニ非ザレバ句トハ稱フヿ可ラズ

問　接辭ト接辭ト連合スル法及ビ例ハ如何ヿ連合スル法ハたりト云フ言トやト云フ辭トヲ合セテ（たりや）ト為シなりト云フ言トきト云フ辭トヲ合セテ（なりき）ト為シざらト云フ言トんト云フ辭トヲ合セテ（ざらん）ト為シまじきト云フ辭トヲ合セテ（まじきぞ）ト為スガ如シ

接辭ト接辭トヲ連合スル例

なりき・たりき・たりぬ・なるぞ・たり・

たりつ　たりけり　たるぞ
たるや　たるか　たるな　つるぞ
つるや　けるぞ　けるや　けるなり
きや　きやぞ　きや　きか
ざりき　ざるぞ　ざるや　なにか
なにぞ　いづれか　いづれぞ
などか　まぢやぞ　まぢきぞ
べきや　べきぞ　べくなん

問　ごときや　ごときぞ　よりぞ

上来次第ニ説レタル體言ト體言ト連合セシ句。用言ト用言ト連合セシ句。或ハ接辞ト連合セシ者ノ如キハ各其辞中ニ種類アルヲ以テ體言ニ四種アリ用言ニ二種アリ接辞ニ二十種アル如キ者ヲ云フ體言ハ何種ノ體言ヲ指スカ用言ハ何種ノ用言ヲ指スカ分明ナラザル如シ如何ニシテ之ヲ知ルベキカ

答　斯ク辞々ノ連合ヲ説テ其所ニ何種ノ辞ト云フヲ言ザル者ハ已ニ初編ニ編ニ其辞ノ何種タルカヲ示セルヲ以テナリ故ニ體言ハ何ノ體言カ用言ハ何ノ用言カ接辞モ亦何ノ接辞カヲ知ント欲セバ辞ノ活用或ハ形ヲ推シテ初編ニ編ニ遡リテ其果メ何辞ニ係ルカヲ會得スベシ

問　辞々ノ連合ハ大抵前ニ説ケル如キカ

答　然リ然レ𪜈此體言ト體言ト連合ノ間ニ接辞ヲ置ク者アリ用言ト體言ト連合ノ間ニ接辞ヲ置ク者アリ體言ト用言ト連合ノ間ニ接辞ヲ置ク者アリ用言ト體言ト連合ノ間ニ接辞ヲ置ク者アリ又體言ト用言ト連合ノ間ニ接辞ヲ置ク者アリ用言ト用言ト連合ノ間ニ體言ト接辞トヲ置ク者アリ用言ト體言ト連合ノ間ニ接辞トヲ置ク

問　體言ト體言ト連合ノ間ニ置ク接辭ノ名又ビ置ケル例ハ如何

答　二個ノ體言ノ連合ノ間ニ置ク接辭ハ歎辭ヤ・現在辭ノなる指示辭ノのかトス而ノ其置ケル例ハ左ノ如シ

花や花　君や君

國なる親　家なる兒

雪の日　月の夜

問　用言ト用言ト連合ノ間ニ置ク接辭ノ名又ビ置ケル例ハ如何

答　甚タ多シ故ニ今ハタヾ其一二ノ例ヲ左ニ擧グベシ　二個ノ用言ノ間ニ置ク接辭ハ初學日本文典篇辭論ニ詳論セリ就テ見ルベシ　然レ𪜈尚ホ其委キヲ知ラント欲セハ二編ニ出シ、二十種ノ接辭ニ用言ヲ係

君が為　我が身

ケ試ミバ自ラ悟ルナラン

持ち行く　立て出づ

聞で去ぬ　知で過ぐ

語つゝ——睡る　怒つゝ——起つ

抱ながら走る　遊ながら暮す

熱ぞ照る　寒ぞ吹く

悔や思ふ　悲や有る

青とそ染れ　赤とそ塗れ

問　體言ト用言ト連合ノ間ニ置ク接辞ノ名又均なん有る委なん有る

答　體言ト用言ト連合ノ間ニ置ク接辞ハ種類甚ダ多シ故ニ今ハタヾ其一二ノ例ヲ左ニ擧グベシ體言ヲ承テ用言ニ續ク接辞ハ總テ此ニ説ク歹ノ接辞ナリ尚ホ小學日本文典ニ就テ接辞ノ格ヲ見ヨ

日は出づ　月も傾く

雪が零る
火や燃る
人は多き
山の深き
日や高き
天は晴る
時が過る
世や治る

雨ぞ止む
水こそ流るれ
荷も重き
野ぞ廣き
國こそ遠けれ
空も曇る
年ぞ暮る
心こそ和れ

秋は深き
夏の苦き
日や長き
光は出づ
恨が有る
謡や聞く
馨は佳き
慎の深き

春も淺き
冬ぞ寒き
夜こそ短けれ
戰も起る
話ぞ為る
祭こそ始れ
艶も懐き
助ぞ多き

問

費や多き
吾は行く
汝が出る
彼や進む
此は正き
其が善き
彼や辛き

用言ト體言ト連合ノ間ニ置ク接辭ハ種類

偽こそ無けれ
吾も行く
汝ぞ見る
彼こそ退け
此も惟き
其ぞ欲き
彼こそ美けれ

答

ヒ置ケル例ハ如何

用言ト體言ト連合ノ間ニ置ク接辭ハ種類甚ダ多シ故ニ今ハタヾ其一二ノ例ヲ左ニ擧グベシ用言ヲ承テ體言ニ續ク接辭ハ總テ此ニ就テ學日本文典ニ就ク所ノ接辭ナリ尚ホ小接辭ノ格ヲ見ヨ

嘶くなる馬
傾きたる月
鈍きごとき刀

泣くなる兒
洗ひたる衣
淺きごとき川

問

謡ひつる歌
進みぬる心
結びける氷
勝ち志争
行かぬ吾
語らぬ彼

體言ト用言ト連合ノ間ニ用言ト接辞トヲ置ケル例ノ如何

好みつる業
住みぬる世
映志ける光
受け志恵
退かさる吾
瞥らざる彼

體言ト用言ト連合ノ間ニ用言ト接辞トヲ置ケル例ハ如何

答

體言ト用言ト連合ノ間ニ用言ト接辞トヲ置ケル例ハ左ノ如シ

雨は強く零る
天は清く晴る
戦ゝ早く已む
吾見て習ふ

風は烈く吹く
世は安く治る
敵も全く亡ぶ
人見て學ぶ

問

用言ト體言ト連合ノ間ニ體言ト接辞ヲ置

答　用言ト體言ト連合ノ間ニ體言ト接辭トヲ置ケル例ハ左ノ如シ

傾たる秋の月　嘶く厩の馬

飢たる節の食　淺き流の川

進む時の心　這ふ児の看護

遊ぶ日の獵　尊き神の祭禮

問　第八回　文章論ノ下

辭々ノ連合ハ此各種ノ例ノ外ニハアルヿ無キカ

答　然リ辭々ノ連合ハ此外ニハアルヿ無シ試ニ一ノ文章或ハ歌ヲ解剖シテ見ヨ自ラ悟ルヿアルベシ而ノ若シ此解剖ヲ為ントス欲セバ先ヅ上ニ擧タル各種ノ例ヨリ記エヨ

各種之例

第一　體言ト體言トノ連合

第二 用言ト用言トノ連合
第三 體言ト用言トノ連合
第四 用言ト體言トノ連合
第五 體言ト接辭トノ連合
第六 用言ト接辭トノ連合
第七 接辭ト接辭トノ連合
第八 體言ト體言トノ間ニ接辭ヲ置タル連合
第九 用言ト用言トノ間ニ接辭ヲ置タル連合
第十 體言ト用言トノ間ニ接辭ヲ置タル連合
第十一 用言ト體言トノ間ニ接辭ヲ置タル連合
第十二 體言ト用言トノ間ニ接辭ヲ置タル連合

問

左ノ二首ノ歌ヲ解剖シテ辞々ノ連合ノ如何ナルカヲ示セ

龍田川紅葉乱て流めり
渡ば錦

待つ人に有ぬ物から初鴈の
今朝鳴く聲の珍かな

第十三 用言ト體言トノ間ニ體言ト接辞トヲ置タル連合

答

二首ノ歌ノ中先ッ龍田川ノ歌ヨリ解剖シテ辞々ノ連合ヲ示スベシ

龍田川 體言ト體言トノ連合
紅葉 體言ト接辞
乱て 用言ト連合
流めり 用言ト接辞
渡ば 用言ト接辞
錦 體言

中や　體言ト接辞ノ連合
絶なん　用言ト接辞ノ連合

後ノ歌

待つ人に　體言ト接辞ノ連合
有ぬ　用言ト接辞ノ連合
物から　體言ト接辞ノ連合
初鴈の　體言ト接辞ノ連合
今朝　體言ト接辞ノ連合

鳴く〳〵声の　用言ト接辞ノ連合
珍かな　用言ト接辞ノ連合

此後ノ歌ノ初句（待つ人に）ノ待つ人ハ

用言ト體言ト連合セシナリ而ノ此初句ヲ

體言ト接辞ノ連合ト説シハ本ト體言ニ

續ケル用言ハ其體言ノ形容詞タルヲ以テ

此連合ヲ直ニ一個ノ體言ト看做セバナリ

體言ニ續ケル用言ハ皆形容詞ニ変ズルコト詳ニ説ケリ第三句ノ（

問　古今集ノ序ノ中ナル左ノ二節ヲ解剖シテ
（初偈）第四句ノ（鳴く声）モ亦然リ
其辞々ノ連合ヲ示セ

第一節

猛き物部の
心をも　慰るは

歌なり

第二節

天地の　開け始りける　時より

出来にけり

答　此二節ノ文ヲ解剖シテ辞々ノ連合ヲ示セ

第一節

猛き物部の　体言ト接辞トノ連合
心をも　体言ト接辞トノ連合
慰るは　用言ト接辞トノ連合
歌なり　体言ト接辞トノ連合

第二節（ダイニノフシ）

天地（アメツチ）の　體言ト接辭ト連合

開け始りける（ヒラケハジマリケル）　用言ト接辭トノ連合

時（トキ）より　體言ト接辭トノ連合

出来（イデキ）にけり　用言ト接辭トノ連合

尚ホ此（コノ）二節（フタフノフシ）ヲ細（コマカ）ニ解剖（カイボウ）スルトキハ則チ左（ヌ）ノ如（ゴト）シ

第一節（ダイイチノフシ）

心（コヽロ）　體言

を　接辭ト接辭トノ連合

慰（ナグサ）むるは　用言ト體言トノ連合

歌（ウタ）なり　體言ト接辭トノ連合

第二節（ダイニノフシ）

猛（タケ）き物（モノ、フ）部　形狀言連體ノ格　用言ト體言トノ連合ニテ猛きハ物部ノ形容詞ノ體言ト體言ト接辭ヲ置タル連合

問　天地の開け始りけるより時より出来にけり　用言ト用言ト連合

答　此辞々ヲ連ネテ為タル句ヲ二個綴リ合スルニ法アリヤ　接辞ト接辞トノ連合

二句ヲ一個ニ綴リ合スルニ其法アリ例ヘバ句ノ已ニ切レタル者ハ両辞ノトヲ以テ其連續ヲ為シ句尾ノ連體ヲ以テ續クル類ナリ今二句ノ間ニ體言ヲ以テ續クル斜線ヲ施シテ連綴ノ記号ト為シ其例ヲ左ニ示スベシ

天晴るゝと日出づ
天曇るゝと雨零る
夜更くゝと虫鳴く

問　花開くと鳥囀る

答　日の長き時は春

夜の短き時は秋

雷の鳴る時は夏

雪の零る時は冬

問　三句ヲ一個ニ綴リ合スル例ハ如何

答　三句ヲ一連ニ綴リ合スル例ハ左ノ如シ

童子ハ父母の意に違ふな

童子よ教師の命に背くな

童子よ説話を文章に綴れ

童子よ感あらば歌を詠め

問　此三句ヲ綴リ合セシ四節ノ中に於テ（父母の意に）（教師の命に）ノ（文章を）ノ（感あらば）ノ四辞ハ何ト云フ辞ナルヤ

答　此四辞ハ皆ト云フ辞ナリ

問　ト云フ辞ハ前ニ擧タル辞々連合ノ例ノ如何

答　此四節ニアルにをばノ三辞ハ前ノ連合ノ例ニハ出サズ何トナレバ前ノ連合ノ例ハ一言一辞毎ニ豆尓乎波ヲ調ヘタルヲ以テ總テ其言辞切テ續カズ一言一辞モ豆尓乎波ヲ調ヘザルヲ以テ續キテ切レネバ豆尓乎波ヲ調フル能ハズ例ヘバ（天晴る日出づ）ト云フ二句ヲ合セテ一事ニ為ラザル如シ然ラバ如何ナル者ト為スカ

問　此三辞ヲ句尾ニ置クヿ能ハザラバ如何ナル時ニ用フル者ト為スカ

答　句尾ニ置クヿ能ハズトハ一句ノ豆尓乎波ヲ調フル上ニテ謂ヘルナリ數句ヲ綴属スル連ナル辞ナルヲ以テ續キテ切レネバ豆尓乎波ヲ調フル能ハズ例ヘバ（命に背くな）（文章に綴れ）ノ如シ故ニ此三辞ハ前例ニ出スヿヲ得ザリシナリ

問　此三辞ヲ句尾ニ置クヿ能ハザラバ如何ナル時ニ用フル者ト為スカ

答　句尾ニ置クヿ能ハズトハ一句ノ豆尓乎波ヲ調フル上ニテ謂ヘルナリ數句ヲ綴属ス

ルヤニ至ラハ句尾ニ置クヿ常ナリ例ヘバ

（梅の花に鶯は鳴く）（母親を嬰児は慕ふ）ノ如シ然レドモ總テ用言ニ連ナル接辞ハ語勢ノ変動ニ従テ種々ニ変化スル者ナリ今其一例ヲ示スベシ

一印ハ其所ニテ詞ノ切レシヲ示セル記標ナリ

正格

梅の花に鶯は鳴く

嬰児は母親を慕ふ

変格

梅の花に鶯は鳴く

嬰児は母親を慕ふ

問　此変格ノ後ニ挙タル例ニ依レバ亦用言ニ連ナル格アリヤ

答　然リ。モ亦連用ノ格ヲ有テリ

問　然ラバ用言ニ連ナル接辞ハ。をばノ上ニ

問　はヲ加ヘテ四辞アリト為スカ

答　否用言ニ連ナル接辞ハ此四辞ノミナラズ二編ニ挙タル各種ノ接辞ノ中ヲ數ヘバ數十辞ニ至ルベシ

問　體言ニ連ナル接辞モ亦アリヤ

答　體言ニ連ナル接辞モ亦アリ二編ニ挙タル接辞中ヨリ用言ニ連ナル者及ビ體言ニ連ナル者ヲ抄出シテ示セ

答　二十種ノ接辞ヨリ體言或ハ用言ニ連ナルベキ辞ヲ集メバ左ノ如シ四編ニ説タル五用ヒタリ見合セテ悟ルベシ結辞中ニ體言ニ續ク接辞ヲ○用言ニ連ナル接辞

に　へ　の　が　で
を　は　こそ　なん　なも
なり　たり　ざり　で　ぞ
か　も　や　疑辞　や　も　いかに

など　かは　やは　と　も
ど　ども　つゝ　ながら
を　ら　さへ　だに　ほど　ばかり
のみ　まで　める　まじく
べく　ごと　とく　ば　より　から
ゆゑ

○體言（テイゲン）ニ連（ツヅ）ナル接辞（セツジ）

や　嘆辞
の　が
なる　ける

けん　まじ　に　ず　ぬ
たる　つゝ　める　ん　まし　ざる
ず　ぬ　辞　否　不　らん　らし　まじき
める　べき　ごとき

問　此用言（ヨウゲン）又（オヨ）ビ體言（テイゲン）ニ連（ツヅ）ナル接辞（セツジ）ヲ用（モチ）ヒテ四句（ヨック）ヲ一個（ヒトツ）ニ綴（ツヅ）リ合（アハ）スル例（レイ）ヲ示（シメ）セ

答　用言（ヨウゲン）又（オヨ）ビ體言（テイゲン）ニ連（ツヅ）ナル接辞（セツジ）ヲ用（モチ）ヒテ四句（ヨック）ヲ一連（ヒトツラ）ニ綴（ツヅ）リ合（アハ）スル例（レイ）ハ左（サ）ノ如（ゴト）シ

童子や文典は文法を解たる書ぞ

童子よ辞書は辞義を解き志書ぞ

彼塾は此人の學問を為志處なり

此鳥は常に彼林に棲たる鳥なり

問　此二個ノ接辞ヲ用ヒテ五句ヲ一連ニ綴リ合スル例ヲ示セ

答　二個ノ接辞ヲ用ヒテ五句ヲ一連ニ綴リ合スル例ハ左ノ如シ

我は汝と往昔此花園の花を見き

我は母の懐にて往昔此雪を見き

問　句ヲ積テ文章ヲ為スト云フハ如何

答　句ヲ積テ文章ヲ為スト云フハ前ヨリ説キ来タル如ク二句ヲ積ミ三句ヲ積ミ漸々ニ積テ數十句數百句ニ至ル者ナリ其句ノ多キト少キトハ思想ノ多少ニ依ル故ニ少キハ二句三句ニテ盡ル者アリ多キハ百句二百句

ヲ累テ終ラザル者アルベシ譬ヘバ風ノ吹クヲ見テ風ノ吹クヲ書クニハ（風吹ク）ト書キ其風烈キハ（風烈ク吹ク）ト書キ又其風ノ樹木ノ枝ヲ折ルキハ（風烈ク吹キて樹の枝を折る）ト書クガ如シ

問　句ヲ積ムニ順序アリヤ

答　句ヲ積ムニ順序アリ始メニ文主ト為ルベキ者ヲ置キ其次ニ作用言即チ文主ノ目的ニ向テ為ス作業ヲ記スナリ

問　此順序ヲ見ルベキ例ヲ示セ

答　此順序ハ則チ左ノ例ノ如シ

問　句ヲ積ムニ法アリヤ

答　句ヲ積ムニ法アリ是ヲ語脉ト云フ

問　語脉ト云フハ如何

答　語脉トハ語ノ連絡ヲ云フ譬ヘバ上句ノ語ノ遥ニ下句ノ語ニ通ジ下句ノ辞ノ遠ク上句ニ達スル者ヲ云フ

問　語脉ヲ見ル法又ビ視易キ語脉ノ見レタル例ヲ示セ

答　語脉ヲ見ル法ハ其辞ノ格ヲ推シテ其辞ノ何辞ニ通ズルカヲ知ルナリ例ヘバ句尾ニ連用辞用言ニ續ク辞アル句ヲ上句ヲ上ニ用フルトキハ下ニハ必ズ之ニ應ズベキ用言アル句ヲ置ザル可ラズ句尾ニ連體辞體言ニ續ク辞アル句ヲ上ニ置クトキハ下ニハ必ズ之ニ應ズベキ體言アル句ヲ用ヒザル可ラズ左ニ擧ル例ヲ見ヨ

は。ハ用言ニ續ク格ノ辭ニテ下ノ見きト云フ作用言ニ續ケリ

吾は。麗く開きたる薔薇の花を見き

は。ハ用言ニ續ク格ノ辭ニテ下ノ麗しト云フ形狀言ニ續ケリ

薔薇は。其花麗くて。其香美しき

は。ハ體言ニ續ク格ノ辭ニテ下ノ雪ト云フ體言ニ續ケリ

昨日雫りしは。稀なる大雪に木は折たり

庭に。積たる山の如き雪は。未だ融ぎ

たるハ下ノ雪ト云フ體言ニ續ク格ノ辭ニテ

にハ。共ニ連用言ナリ

にハ連用言ナリ

はハ連用言ナリ

を。モ上ノ。ハ。ト格同ジ

モ上ノ。ハ。ト格同ジ

問　此語脈ト云フハ常ニ誤ルコトアリヤ

答　動スレバ誤ルコトアリ而メ此語脈ヲ調ノルニハ自他或ハ時刺ニ於テモ同ジ理ナレバ更ニ三編ヲ返テ其説ヲ合セ見ヨ

問　此語脈ヲ誤レル例ハ如何

答　語脈ヲ誤レル者ハ大抵左ノ例ノ如シ

散る花の憂さをも知らで鶯の聲

（知らでハ用言ニ續ク辭ナレバ知るト云フ用言ニ續ケリ）

日暮るとも月の光りに道は惑はぬ

（惑はぬハ體言ニ續ク辭ナルニ下句ニ體言ナシ）

問　此語脈ヲ誤レル者ハ如何ニ改ムルニハ如何ニ為ベキカ

答　語脈ヲ誤レル者ヲ改ムルニハ誤レル所ノ辭ヲ推スニ明瞭ニ知ラルヽナリ前ノ（憂さをも知らで鶯の聲）ノ如キハ「で」ノ辭ニ連用ニシテ下ニ續クベキ用言ナキヲ以テ誤レルナレバ下ニ用言ヲ置クカ或ハ體言

ヲ用言ニ改ムルナリ例ヘバ（鶯の聲）ト云フヲ（鶯ノ鳴ク）ト為サバで。ト云フ連用辞ハ鳴クト云フ用言ヲ得テ續クヲ以テ其誤リハ則チ直ルベシ又後ノ（道は惑はぬ）ノ如キモぬ。ノ辞連體ニシテ下ニ續クベキ體言ナキヲ以テ誤レルナレバ下ニ體言ヲ置クカ或ハ連體辞ヲ截斷辞ニ改ムルナリ四編ノ五尓乎波ノ調例ヘバ（惑はぬ）ト云フヲ（惑はぬヲぞ。）トぬヲぞ。ニ易ヘバ則チ誤リハ直ルベシ

問　前ニ擧タル（道は惑はぬ）ヲ（道は惑はぬ）ぞ）ニ改メバ其一句ハ調ヘ氏惑はぜハ現在ヲ云ノ辞ニアラズヤ

答　然り現在ヲ云フ辞ナリ

問　然ルキハ上句ノ（日暮るとも）ト云フハ已ニ暮レタルニハ非ズ若ン暮ルモト云フ

義ナレバ未来ヲ云フ辞ナリ上句ハ未来ヲ云ヒ下句ハ現在ヲ云ハバ三編ニ説カレタル時刻ノ照應ヲ失フユヱ是亦語脉ヲ誤ルニ非ズヤ

答

然リ語脉ヲ誤ルナリ然レバ前ニ（道は惑はぬ）ト改タルハ其一句ノ誤リヲ直シテノミニテ未ダ全句ノ照應ニハ説キ及バザルナリ故ニ今

ハ其全句ノ上ニ就テ論ゼン先ヅ（道は惑はぬ）ノ一句ハ之ヲ（道は惑はぢ）ト改ムルヲヨシテ現在ニはぢモ共ニ固ヨリ現在ヲ云フ辞ナリ而メ上句ノ照應ヨリ論ズルキハ上句ハ未来ヲ云ヒ辞ナレバ下句ニ於テモ亦必ズ之ニ應ジテ未来ニ言ザルヲ可ラズ然ルキハ前句ノ如キハ左ノ如ク改ムベシ

問　日暮るとも月の光りに道は惑はじ。

彼此ノ句ヲ綴合スルキ其綴合ノ為ニ句ニ変勾ヲ生ズルナキヤ

答　変勾ヲ生ズル者アリ或ハ変勾ヲ生ゼザル者アリテ一定セズ即チ句尾ノ體言ニ終リタル者ハ用言ノ體言ニ連ル句尾ノ用言ニ終リタル者ハ変勾セズ用言ノ體言ニ連ル句尾ノ用言ニ終リタル者ハ変勾ス

云フ

問　変勾スル者ノ例ハ如何

答　変勾スル者ハ句尾ノ用言ニ終リタル者ニテ例ヘバ（書を讀みき）ト云フ句ヲ（書を讀み）ト云フ句ニ綴リ合スルキハ讀みきト云ノきヲ志ニ易ヘテ（書を讀み志）（高き机）ト云フ句ニ綴リ合スルキハ讀み志高き机）ト為スガ如シ

変勾スル者ノ例。印ノ辞ハ句尾ノ辞ヲ改ムベキ辞ナリ

影朧なる春の夜の月

問　光り涼き　夏の夜の月
　　影明なる　秋の夜の月
　　光り凄き　冬の夜の月

答　変勾セザル者ノ例ハ如何

問　変勾セザル者ハ句尾ノ體言ニ終リタル者ニテ例ヘバ（彼の筆）ト云フ句ヲ以テ（字を書き筆なり）ト云フ句ニ綴リ合スルキハ彼の筆ト云フ句ノ尾ニ一個ノ連用辞ノ附ケテ續クベキ接辞（彼の筆は字を書き筆なり）ト為スガ如シ連用辞ヲ句尾ニ附クルハ下ノ句ニ用言アルヲ以テナリ

答　変勾セザル者ノ例ハ二句ノ間ヲ其レニ續クル為ナリ

問　変勾セザル者ノ例續クル為ニ加ヘシ也

　春の夜の月は光り涼き
　夏の夜の月は影明なり
　秋の夜の月は影朧なり
　冬の夜の月は光り凄き

問　斯ノ如ク二句ヲ接續スル上ニ就テハ尚ホ多クノ法アリヤ

答　二句ヲ接續スル上ニ就テハ尚ホ種々ノ法アリ然レ𪜈前條ニ說ケル辭々ノ連合シテ句ト為ス法ヲ學ビ而ノ其ニ三ノ句ヲ綴屬スベキ法ヲ知ラバ其余ハ自ラ會得スルヿアルベシ此編ハ始ヨリ紙數ニ限リアリテ餘ハズ況ヤ意ヲ盡スヿ能ハ

ニ於テヲヤ故ニ此篇ニ漏タル者及ビ歌ニ詠ムベキ辭ノ綴リノ如キハ更ニ後編ニ說キ出スヲ見ヨ

日本文法問答五編終

明治十一年三月廿九日版權免許
同　年四月十五日出版發賣

著者　大分縣士族　物集高見　第二大區一小區三年町二番地寄留

出版人　東京府平民　片山武兵衛　第一大區十三小區濱町二丁目十六番地

發賣人　同書林　出雲寺萬次郎　同大區同小區橫山町二丁目一番地